

增補考古畫譜

卷十



増補考古畫譜卷十

不部

文安御即位調度圖

一卷

好古小録云此卷圖スル所皆古制ヲ考フベシ但  
圖ノ細密ナラザル遺恨ト云ベシ  
畫圖品類云平貞丈云或説小文安年中即位ハ無  
之其書の終小文安元年正月令書寫了藤原光忠  
とあり是小よる後人誤テ文安御即位調度圖  
と題號を出せしならむ此書中に大極殿の事あり  
大極殿ハ治承元年燒亡せし後再興なし此圖

黒川春村原稿

古川躬行纂輯

黒川真頼増補



ハ治承已前の古圖なり。夫を文安元年に光忠といふ人傳寫せしもの成べしといへ。此說確論なり。然もバ題號の文安の二字ハ刪りて可也。群書類從第九十二載一卷

補 普賢菩薩像 一幀

補 博物館藏

補 真頼曰。白象にのまる像なり。

補 同

補 畫工便覽卷四云。長利不知其姓。甲陽侍士得傳神。畫文殊普賢二像。圖之則變易常衣服。潔齋淨明而採筆云云。

補 同

補 京花集卷七云。上杉太守藤公自畫文殊普賢二

大士乞讚走筆

補 春村曰。此の事文明十四五年間ハ係る。

普賢十羅刹女像 一幀

玉海云。養和二年正月十二日。此日舊臣女房等奉

供養結緣經。講師澄憲僧都略中普賢菩薩并十羅刹

女半一幅。女房等手自所奉圖也。

躬行按ハ。治承五年正月十四日。高倉上皇崩。今

年則周闋。御追福の奉為なり。

同 一幀

畫圖品目云。畫者不知。遠州濱名大福寺什

倭錦云。信實濱名大福寺什物。普賢十羅刹女。

匣記云。古昔濱名之長者因女之難病。寄附之

貫雄曰。信實朝臣真跡無異論者也。曾在新見伊

賀守許今依舊為大福寺什物

同 一幀

信實朝臣筆

貫雄曰故式部丞岡田為恭珍藏之彼有事之後不知所在此圖最精微也

同 一幀

刑部大輔光長筆

躬行曰右三幀十羅刹女容貌服章悉以國朝宮女裝作之頗優美蓋佛像中之雅品也

同 一幀

倭錦云春日隆能普賢十羅刹女

同 一幀

住吉法眼慶恩筆

杉浦左衛門尉所藏

補同

補倭錦云巨勢源慶普賢十羅刹女

不空羅索并四天王像

補畫工便覽卷一云藤原内膳號長岡大臣真楯子

母從五品安部常九女好丹青圖不空羅索并四天王

王像納所弘仁三年十月十六日卒五十八賜太

政大臣

補不空羅索圖

補山槐記云治承四年九月一日依故殿御忌日已

刻參觀音寺堂圖不空羅索寫妙法花經前大相國

渡給刑部卿賴輔朝臣參入各被供養佛經導師權

律師源實未終剋歸草□

不動尊像

補倭錦云。巨勢弘高。不動數畫。

補古今著聞集卷十一云。六條宮吳平親王 道長公御堂。上申給ひけ

る。ハ布障子の役など。ハ今ハ弘高をバりさる

べうらひ。輕々おるべき事なり。弘高き。て自愛

しけ。此ひろたのハ金岡の曾孫公茂。孫深江

が子也。公忠公茂よりさきハ書たる畫生。も

の。如し。公茂已下今の體ハ成るとなる。弘

高少年の時出家去とける。後ハ還俗去とる

ものなり。其罪をたそれて。自千體の不動尊を書

て。供養し。ちるとなる

本朝畫史云。弘高畫地獄變相。或不動尊一千體。而

為供養。弘高初為僧。還俗故如此云

同 一幀

補倭錦云。長隆。蒙古退治本尊不動尊

補同

補畫工便覽卷二云。釋圓珍號智證大師。圖黃色不

動像。名之黃不動。和州長谷寺收之。利益足于乞。其

外粗好佛像甚奇。弘法姪傳教弟子也

補元亨釋書卷三云。初珍泛洋北風俄起。漂流求國

遙見數十人持戈矛立濱。抵良暉悲泣。謂珍曰。我等

當為流求所噬。為之如何。蓋流求者海嶋之啖。人國

也。珍乃合掌閉目。念不動尊。時金色人忽立于舳。舟

中人皆悉見。須臾東南風來。帆幅飽飛。翌日著福州。

先是承和五年冬。珍禪坐石龕。恍惚之間。倏金色人

現形曰。汝圖我歸命。珍問曰。為誰。答曰。我不動明王

也。我念法器。故擁護汝。宜勵志操。為苦海之航筏。珍

熟見其形魁偉奇妙威焰熾盛手把劔足踏虛珍便頂禮覺後命畫工圖所夢像是以風濤危害索救明王今之現形果金色也

補同

補同書卷十七云通議大夫尚書右丞平時範者尾州刺史定家之子也天仁元年冬辭鸞臺入佛家法號定慧來問者皆曰未至耳順致仕何速乎答曰我昔心中立約年五十六必割世網今行年五十五羸病荐侵何必待來歲故爾耳次年正月謂人曰仲春我去至二月五日修彌陀護摩法華懺又圖黃金色不動尊像十日病革扶起念彌陀寂然薨年五十六

補同

補鎌倉大草子卷五云古劔明澤和尚と申ハ夢窓

國師の御弟子ふて不動明王の化身也兒の時よ  
好きて不動明王の御像形を繪らき給ふ中年  
よて餘り不動の像數多ありけりば取あつめ筥  
み入古き藏み入置給へば其筥より火炎もえ出  
けり寺僧驚き此火を多し筥をひらきて見まば  
不動の像より火炎出けりなり是より明澤和尚  
の書給ふ不動の威徳ありけり事を人あまぬく  
志りけり也さてこそ此和尚を不動の化身とも  
申けれ

補畫工便覽卷三云明澤名異甲陽人云云甚好圖繪  
作不動像師制之一日亦畫件像師來澤恐而彼畫  
像隱于疊下自其疊焰出益隆也仰驚師其故問澤  
答師則拜澤曰汝將不動再來自今以後不燒圖繪

自是尚往々作不動。老年歸甲州。州人甚深敬之。圖繪今有甲州。

補同

補同書卷四云。化藏院不知其名。常州人。圖不動。愛染面手。全身以悉曇異作而在。活動。

補同

補天陰語錄部贊云。書朴堂畫不動明王像。吾邦桑門碩德。繕寫大威怒王像者。雖有數家。威驗赫爾者。野山有弘法。園城有智證。鳥羽而僧正。竜峰而慈聖也。斯四大士。神通遊戲之餘。旁涉書畫。獲者以為護身之符也。前南禪朴堂和尚。以繪事續四大士之絃。最善細字。於瓜甲之上。書般若心經一卷。與彼書國泰民安四字於一麻子之上者。豈可優劣哉。中略和尚去

歲四月廿四日。示滅於越之舊梓。行年八十七也。藤氏某寄此軸。需一詞。披而拜之。明王入火光三昧。二童侍側。劍有下如牛毛者。慈救神咒也。末書歲月曰。嘉吉元年云々。和尚此時解東山之印。後四年也。

補同

補同書部贊云。吾邦桑門碩德。繕寫大威怒王像者。雖有數家。威驗赫爾。野山有弘法。

補真賴曰。弘法大師の畫がける不動尊の像。此ありけること。此文みよきて見るべし。

補同

補同書部贊云。繕寫大威怒王像云云。鳥羽而僧正。

補真賴曰。全文ハ既上の件ニ掲げたり。鳥羽僧正ハ即覺猷なり。覺猷の畫がける不動尊の

ありたりこと。此の文も據て見るべし

補同

補同書部贊云。繕寫大威怒王像云云。竜峰而慈聖

補真頼曰。竜峰ハ大徳寺あるべし。慈聖の畫が  
け了不動尊のありたりこと。此の文も據て見  
るべし

補同

補同書部贊云。不動明王像注昔承和五年冬。智證

大師一夕夢中金色不動明王現形。手把劍索。足踏  
虚空。威焰赫然。夢覺命畫工圖所夢像。此圖様是也。  
掘出雲守秀世公。與山僧講方外交者五十年如一日也。  
此冬寄素絹求圖其像。山僧雖不解繪。支隨其  
請。筆之以爲護身符云

補同

補新編鎌倉志卷二覺國寺云。寺寶。不動畫像。壹幅

三尊。八千枚。五十餘度ノ行者智海七十餘歳書之  
下ニ判アリ。智海ハ心慧ノ諱ナリ

補同

補天聽集云。天文四年八月七日。廬山寺靈寶種々。

帥大納言持參也云云。其外慈惠大師筆不動云云  
補真頼曰。慈惠大師といへり。延暦寺良源な

補同

補宣胤卿記云。應永卅三年六月廿四日。地藏講如  
例。午天參。御參籠所。余昨朝參仕之時。伺申入了。仍  
今日召具所令參也。則御對面初而構見參之間。事



更舍利五粒不動尊像 鳥羽僧正一鋪持參之所 令進上也。頃之退出

補同

補同書云。永正十六年五月廿八日。衝立障子之阿彌陀出來。繪所土佐光信朝臣書之。今日五十足日先遣之。臨終之時可立枕料也。裏ハ令書不動明王。為令降伏臨終之魔障也。

補同

補真頼曰。宜胤卿記の文。委くハはノ部半身阿彌陀の像の條ハ掲載せり。就て見べし

補同

補倭錦云。弘法大師。不動尊

補同

補同書云。宅磨為行。不動

補同

補古畫類聚目錄云。不動尊繪住吉法眼筆

補同

補真頼曰。住吉法眼ハ慶恩なり

補宜胤卿記云。永正十六年五月廿八日云云

御本尊入申候不動尊ハ弘法御筆寫申候先仰分調申候依御意加筆可申承子細候御心得候て可預御申候恐々謹言

五月廿八日

刑部大輔光信

御奏者御中

補同

補東寺寶翰古器目錄云。弘法大師真筆墨畫不動尊

補同

補同書云。興教大師筆。不動尊

補不動降三世像

補倭錦云。宅磨澄賀。不動降三世。河内金輪寺什物

補不動兩童子像

補同書云。山門覺超。不動兩童子。泉州旗尾山萬福

院什物

不動愛染混體像

長隆筆。板橋將順所藏

貫雄曰。聞之荻野梅塢。此修法是生坊之頃。專行于世。與長隆時代合矣。此圖最稀也

佛眼尊 一幀

展開目錄 梅尾 云。惠日房成忍筆。有明惠上人詠歌

之贊

補福祿壽像 一幅

補博物館所藏

補真賴曰。紙本豎彩色の坐像なり。左手に卷子を持てり。傍に香爐あり

補廣貫曰。岩佐又兵衛の筆なりべし

佛像圖 五卷

畫圖品目云。與書云。延慶二年七月十七日。於仁和

寺南勝院書寫。畫金剛佛子印玄 生二年

補同 一卷

補拍木貨一郎藏。梅尾高山寺本

補與書云。天保十年己亥九月奉修補了沙門□護

補真賴曰。此の繪白描の佛像なり

補同 一卷

補 拍木貨一郎藏。母尾高山寺本

補 奥書云。本云。仁安元年十一月一日。以宰相殿令寫了

補 又云。寛元三年五月三日寫了。本ハ石原之筆也

補 真頼曰。此の繪白描の佛像なり

補同

補 青木信寅藏

補同 十卷

補 東寺寶翰古器目録云。諸尊圖像古寫十卷

補 佛像 一幀

補 東大寺塵埃中のもの。布ハ急ハけり。白描ハて雲のうへハ坐ハる像あり

補 不動利益縁起 一卷

補 倭錦云。住吉慶恩。不動利益縁起。詞光明峯寺殿世尊寺伊經卿。同行能卿三筆

補 本朝畫圖品目追加云。不動利益縁起一卷住吉慶恩

補 真頼曰。不動利益縁起ハ證空繪詞とハなるじ。志ノ部證空繪詞の條見合ハべし

福富草子 二卷

好古小録云。二卷畫工姓名不傳

補 本朝畫圖品目云。福富草子二卷。畫書筆者不知隆成筆ト光起極扎カクト云フ

補 古畫目録云。福富翁繪光信筆。京都妙心寺什物類聚目録云。平安妙心寺藏。光信筆

光起極札記云此隆成ハ觀應年中人也ト云伊豫守隆成地下傳の土佐系圖ニ越前守光顯の弟ト云光顯ハ顯文抄ハハ貞和中之人ト云光信永正中の人ト云鳥井雅俊卿ハ大永三年四月十一日六十二歳薨せらる

新編 古語類聚 卷之十一

土佐系圖云。妙心寺春浦庵付。福富雙紙隆成筆。  
倭錦云。土佐光信。福富草子。詞雅俊卿。  
古物語類字抄加進云。此物語ハ、高向秀武といふもの。  
の。年老貪しかるしに。妻のまゝめを随ひて。道祖  
神をいのりたりし。小柑子むのり。不了鐵鈴を  
賜ると。靈夢の告を蒙りぬ。さて其妻の合せて云。  
身のうちよるこゑの出て。をまふよる幸を  
名むといへり。あうるふをかしく尻ひる事をな  
らひて。何ぶしの中將どのにめされ。綾錦黄金等  
を賜り。いみじき福人となりさうえぬ。是までさ  
て此隣ハ七條の坊長福富といふあり。おまをま  
まづしりけをバ。其妻となりをいしく羨む男  
お勤をて。ひただけが弟子とし出たり。やりしに。秀

武あざむきて。けおおしをまうせたりしおより  
て此ふくとまへくそまらら。うも懲されて  
歸りあ。うバ。妻いしくはらごち恨きて。秀武を  
のろひさいいなむよしをかけり。是まで文體ハい  
と志どけなくみゆまど。四五百年前のふ傳つ  
ひとぞおほゆ。但此粉本を見りに。下卷の繪様  
々凡ならび。上卷ハ頗劣なり。されバ原本ハ下卷  
のまふ。上卷ハ後人の蛇足なめりと。かよふき  
いふ人あふりと聞けども。全文まさしく一具し  
たまは。をより上下二まきなましを上卷ハを  
や逸して。次々お寫しひび免たりしおも有べし。  
ま。さやうおもやとた。まらら。よしハ。江  
戸本所の里正關岡長兵衛。新吉原町玉屋山三郎

新編 古語類聚 卷之十一

等が所藏ふも一原本よやとたほしきほどの繪  
卷あまど。何れも下卷のよみて。上卷あし。是等に  
よみて。上卷ハ後人の書添あんといふ説も起を  
ふよやあらむ。たほつらなし。又傳へ聞く此畫ハ  
土佐彈正廣周カクといふ説あり。廣周ハ寛正頃の人  
なれど。文體の古雅ふること。今百年餘もふるげ  
みれもまゝ。古の古卷の下此卷のよを。廣周  
が摸せり。みハあらぬら。又平安妙心寺の藏ふ。上  
下二卷ありて。光信筆といへり。光信ハ文明後の  
人なれば。是ま古卷を寫しけむこと疑ひあし。  
とみもかくよも原本二卷ハ。南北朝の時代など  
み出來けむものなるべし

補可爲曰。妙心寺藏今現存上下二卷なり

妙心寺の本二卷也  
明治九年三月看之  
此卷今爲官物在博  
物館

躬行曰。本所録町の坊長關岡が本ハ。麤ふして  
畫力も何も。娼家山三郎が卷より。いとくおと  
りたり。此兩卷ハ乙卯十月の火災ふあひ。煙  
となりぬと。うまに近頃長井十足一卷を得と  
す。もと冷泉三郎爲恭がもたす。壬戌の  
し爲恭事ありて。後購ひとをる也。書畫とも  
不凡ふして。卷子たけ高く。裝潢金銀をちりむ  
免。一原本なる事いちあらし。是も又下弓なり。  
或ハいふ妙心寺此是也。此三本詞少異あり  
補真頼曰。京都妙心寺塔中春甫庵の福富草紙  
ハ。二部ありけり。其一部ハ二卷隆成の  
急らけるものにて。おもハやく夫とるあ  
べし。今ある一本も亦二卷ふて。光信時代の

增補新編古今圖書集成

福富草子

摹本在博物館



增補新編古今圖書集成

補同異本  
不  
留  
房  
繪  
詞  
一  
卷

此ありよしをきけり。又たもふふ。今ある本を  
をてふらき本はさしかへたりもれう。かゝる  
まきもふもれも當時ありきときけばもりの  
さるたらきたあきわざせしやよくたづぬ  
べし。摹本二卷。博物館より去るの光信の筆  
とハ見込ぬとのあり。隆成のゑりけりといふ  
かゝるべし。

補了悦曰。詞書ハ堯孝風の手跡と見ゆるもの  
あり

補同 殘缺

補 柏木貨一郎藏福富草子下卷一卷

補 眞頼曰。此の巻ハもとハ長井十足藏なりし  
を。故ありて淺草文庫に收まをり。去らるを淺

草文庫より御拂下といふことありしとき。柏  
木政矩去れを購ひ得たるあり

補同異本

補 圖書一覽下卷云。福富草紙異本

不  
留  
房  
繪  
詞  
一  
卷

書畫筆者未詳

摹本博物館にあり。卷尾云。右祐清所持之繪本を  
以令模寫。天保七年丙申四月。會心齋

補 眞頼曰。不  
留  
房  
繪  
詞。或ハ破來頓等ともいへ  
る。ほノ部見合をべし

藤袋雙紙 一卷

倭錦云。土佐光信。藤袋草子

補 眞頼曰。藤袋草紙ハ大意ハ。あふらの國ふを

白見補考

えり翁の。ある辻おてみどり子を拾ひとりて、  
そごてたる。うつくしき姫君と名をたり。翁  
あるとき畑うちて困じとそりるとき、誰か  
の畑をうちてくれとらむものをわが娘のむ  
こにせんといひけり。を、猿のき、法に。畑う  
ちてそのむすめを得んことを契てり。翁後  
悔をまどもらへらぬもの語あり。藤袋の草紙  
といふ名ハ、猿の姫君を將て山へ入る。猿のよ  
そに行んとまるときハ、藤袋ハ姫君をいきて、  
高き木の枝ふかけたきとり、とあるより草紙  
の名ハ、法けたるあり

袋法師繪詞 一卷

補 本朝畫圖品目云、袋草紙、畫者詞書筆者不詳

補真類曰袋法師繪  
詞書ハ袋草子とも  
いへり

補 倭錦云、袋草紙、飛驒守惟久

補 圖畫一覽下卷追加云、袋法師圖一卷、元本柳營  
御物ニアリ、畫ハ飛驒守惟久、詞書ハ傳ナシ、コノ  
本ヲ以テ、住吉具慶寫シタルモノ、住吉繪所ニア  
リ

畫圖品類云、書畫筆者未詳、名物考云、憲廟御時、御  
文庫ハ、古筆の物有し、虫むらさつき、ゆき、繕  
ひなんやと伺ひけり。その繪の亂りむらさき  
ふよ、て捨られし事ありき、云云又憲忠云、畫樣  
ハ、いふも古き筆のあつ、もいふべきを、詞ハ  
阿ま、里にむさら、此事どもおほく、法にけり、ら  
ふ、るめ、うし、からぬハ、恐らくハ、後人の詞を書き  
へ、と、了、もの、あるべし



貫雄曰、幕府の卷、近頃の火に烏有となりぬを  
しむべし。住吉家より真寫の本あり

同異本太泰 一卷

畫圖品目云、別本太泰卷、申出准后之御本、令摸寫  
不可出私箱者也。天明十三年二月為親押

補同異本 一卷

補詞書傳ハらば、住吉具慶畫

補真頼曰、予此の摸本を見、詞を畫ハ賞を  
了らば、足らば、摸者のつとなきありべし

補同 一卷

補繪上佐光信、詞書筆者不詳

補博物館摹本奥書云、右袋法師の圖ハ、土佐光信  
の為ぐく所にして、大城繪所ありしを、天保年

中西城の火にありひりやせぬ、その後嘉永四とせ  
の春、あり人のをより、古き摸本をえて畫并詞  
とも寫し置ところなりけり、あなかくこ雅信

補文正草紙繪

補燕石雜誌卷四云、文正草紙

佛外無魔繪詞 一卷

書畫筆者不傳

補真頼曰、摹本博物館にあり、卷尾云此一巻の卷  
名を注、祐清傳來の繪本なり、天保七年春借得  
る摸と見るとり、僧の憍慢を天狗みたとへ  
了繪なり

補又曰、佛外無魔繪詞ハ、卷のはじめの詞に、佛  
外無魔とありより、らく名づけたるものにて、

補佛光寺親鸞繪詞

恐らくハ、天狗草紙、三井寺の卷の殘缺から

補佛光寺親鸞繪詞 二卷

補古繪目錄云、佛光寺親鸞繪詞二卷

補真賴曰、委しくハ志ノ部親鸞上人繪傳の條  
小志をせり、見合をべし

佛鬼軍 一卷

補本朝畫圖品目云、佛鬼軍殘缺一卷、畫及詞、僧一

休古畫目録亦

好古小録云、佛鬼軍殘缺一卷、畫及詞、僧一休

雍州府志云、十念寺緣起一卷、又佛鬼軍圖、是古土

佐家筆也

日次記事云、六月廿日京極十念寺蟲拂、昨今之間

期晴天而修之、佛鬼軍一弓、奇物也

笈埃隨筆云、十念寺佛鬼軍一卷、奇品なり

躬行曰、此卷文政六年有摹刻之本、麤惡なりと  
其大凡をいへるべし、一休書畫といふ、最信じが  
たし

補真賴曰、佛鬼軍繪詞、摹本一卷、博物館にあり

補佛華嚴 五卷

補圖畫一覽下卷云、佛華嚴五卷、畫信實朝臣、詞岡  
屋關白

普門品畫卷 一卷

跋云、圓通大士妙智感神力、應現之相增至叶所續、  
忽有持經求售者、予愛而慕之、謹摹刻流通於現在  
生中、願一切所求無不果遂者、嘉元戊辰上元日、雲

補真賴曰舞樂圖或ハ唐舞圖ともいへ  
了加ノ部見合まへ  
し

間錢仲鹿敬書 正嘉元年丁巳三月廿九日中務丞菅原光重筆也

貫雄曰以宋版所摹能畫也。經隆等に似たり。故岡田爲恭藏

躬行按ふ。此跋文相字己下的一句讀がとく誤寫ありん。嘉元戊辰ハ宋寧宗の嘉定元年戊辰なり。菅原光重考る處おし

補佛說預脩十王生七經 二卷

補委しくハ志ノ部十王生七經の條よいへり。就て見ればし

不二野牧獵圖 一卷

補本朝畫圖品目云富士野牧狩繪圖一卷肥後國阿蘇宮藏

畫圖品目云不二野牧獵圖肥後國阿蘇宮藏

補文永賀茂祭圖 一卷

補國朝書目云文永繪合賀茂祭草子一卷爲信畫

補圖畫一覽下卷云奥書云此繪龜山院御繪合之時。經業卿所調進也。畫爲信卿詞定成朝臣書之。元德二年閏六月中旬之頃令寫之。畫繪所預隆兼朝臣入道内藏權頭季邦朝臣寫之

補真賴曰文永賀茂祭圖ハ文永賀茂祭雙紙と

同物あり。委しくハ加ノ部賀茂祭雙紙の條見

舞樂圖 一卷

好古小録云。教訓抄及續教訓抄ニ載ル所ノ唐舞繪ナルモノ也。樂舞圖中ノ至寶也

補真賴曰舞樂圖或ハ唐舞圖ともいへ  
了加ノ部見合まへ  
し

補真頼曰古樂圖或ハ寶徳年中舞樂圖といへりは、部見合をべし

同 一卷

補古畫類聚目錄云、寶徳年中舞樂圖。三條宮書、御室繪舞銘、花園院宸筆。

名畫拾彙云、承道法親王本寺宮、世平王男畫舞圖。題書則三條宮、共寶徳頃也。

摸本跋云、三條宮書、御室繪、舞銘、當今宸筆寶徳元年九月日。

一本跋云、本書與云舞樂銘當今御宸筆、畫圖三條宮御室繪、右古樂圖一卷、四條宰相殿手寫御本也。又一本云寶曆五乙亥九月十一日謄寫、左衛門少尉盛韶。

躬行曰、摸本與ハ三條宮書とあり、書字ハ行を

了、一本の奥書もてもあるし寶徳の當今ハ後花園帝にましませり、然るに拾彙此説ハ誤して、畫ハ三條宮、銘ハ則後花園帝の宸翰ならむ。但三條宮未詳、さて卷中伎樂の未陪臚の下ハ朱書も、少納言入道本信西追加之別記とありて、から舞七八を畫けり、此寫頗能畫なり、粉本精らむといへども、人物をほ活動せし。真頼曰、世ハ信西舞樂圖と云て傳ふるものはあり。

同 三卷

教言卿記、應永十五年十月十六日、樂事拔萃云、尾宮舞繪三卷上借給也、急可寫也、廿三舞繪本親尾宮舞繪中下借給也、季英少々寫之、十一月繪具等買寄也。

補同 古畫目録卷十

季英見調之日<sup>二</sup>季英來畫舞也<sup>日五</sup>季英來畫書之日<sup>六</sup>  
今日<sup>七</sup>來繪彩色也<sup>日七</sup>季英來舞彩色事也<sup>日八</sup>舞繪  
終了季英神妙也與引出物五十足比興々々

補真頼曰應永摸本舞樂圖八枚一卷博物館不  
あり卷尾云應永十五戊子年十一月八日以秘  
本寫之とあり教言卿記に見正とる舞繪ハ古  
を歎さらバ應永舞樂圖ハ季秀の筆なるべし

同 一卷

補古畫目録云舞樂圖一卷光信土佐守家繪本  
倭錦云土佐光信舞樂卷物

補真頼曰摹本博物館にあり卷尾云右舞樂圖  
一卷土佐光信筆之由と見正とる殘缺あり

補同 一卷

補本朝畫圖品目云舞樂之圖一卷筆者未詳

補同書云信西入道舞樂之圖藝州宮嶋藏古畫目録同

補真頼曰此の圖世人信西入道舞樂圖といへ  
る依て去る部も掲載せり上條も載るる所  
の寶徳年中舞樂圖とも見合をべし

補同

補同書云舞樂之圖畫光起

補同 二卷

補古畫目録云舞樂彩色圖二卷光長土佐家繪本  
藤原貞幹藏摸本

補同彩色圖 二卷

補所藏者不詳

補同 古畫目録卷十

北極... 古畫譜卷一

補真頼曰。摹本二卷。博物館ふあり。卷尾云。右白川少將の摸本をもつ。摸を晴川法眼と見とたり。此の繪人物はほきし

同 四卷

荒井千春畫。白河定信少將藏

同 屏風 二帖

補古畫目錄云。舞樂圖御屏風在官庫。摹本在土佐守家

好古小録云。大着色。舞樂圖粉本座一此畫元光長寫ス所ニノ。光信此ヲ摸ス。其圖據ルベキ事多シ。一説ニ光信圖スル所ト云非ナリ。又一種舞樂圖屏

風摸本ナ着色アリテ原本光信ノ所寫ト云。是畫所預光信ニ非ズ。狩野光信所寫ノ摸本也。其圖甚劣レリ

土佐系圖云。光信畫舞樂御屏風。在官庫其寫在倭錦云。土佐光信。舞樂屏風

補同

補同書云。土佐光則。金地舞樂屏風

富士野獵馬取屏風 二帖

倭錦云。土佐光茂。富士牧獵馬取屏風

舞樂圖扁額 殘缺

同書云。土佐光重。舞樂額名印有

補真頼曰。光重。舞樂圖一葉。山井景順藏せり。樹石を添て位置をかせり。高さ一尺餘。廣さ八寸

曾甫考古畫譜卷一

許あり

舞樂面并裝束圖 二卷

舞樂面及裝束摸本高野山密藏院藏

舞樂并田樂裝束調度圖

高野山金剛峯寺藏摸本也

佛足跡圖 一座

古京遺文云佛足石跡石左側記云太唐使人王元策向中天竺磨□□國中轉法輪見跡得轉寫搭是第一本日本使人黃書本實向大唐國普光寺得轉寫搭是第二本此本在右京四條坊禪院向禪院壇披見神跡敬轉寫搭是三本從天平勝寶五年歲次癸巳七月十五日畫廿七日并一十三箇日作檀主從三位智奴王以天平勝寶四年歲次壬辰九月七

日改之寫成文室真人智努畫師越田安万畫寫□

石手□□呂人足□仕奉□□人以上左側在西右在

南都藥師寺

拾遺集傷哀光明皇后山階寺にあり佛跡ふ書つけ

給ひりるみそぢあまふとつゝの姿をなへとる

むろしゆ人のふえり何とぞあは

豐樂院圖

國朝書目云豐樂院圖同文龜中傳寫圖各一鋪

風雅集竟宴似繪

園大曆貞和四年十一月廿七日云今日豪信法印來予謁之可寫予顏云々者先年風雅集竟宴可被畫似繪為其此間於仙洞被召人々令畫之予向里第可令畫沙汰云云余着冠直衣謁之民部同令畫

之

補 陀羅山圖

補 長秋記云。天承元年七月八日。鳥羽殿跡御堂供養也。畧中七間四面廂御堂也。中央一間有柱。繪有螺鈿。佛壇安置半丈六彌陀等身二菩薩像。佛後圖九品曼陀羅繪像。佛師知順筆云云其北面圖補陀羅山。賴俊筆云

補 佛壇畫樣

補 同書云。保延元年六月廿一日午時。伊豫守忠隆朝臣傳仰云。只今可參者。仍馳參御堂間雜事也。畧中自御所下給佛壇繪樣。前日改下官所圖進繪樣。資盛又進繪樣。而付何可令用哉。予申云。下官所圖進者一御堂同繪樣也。資盛所圖進者別繪樣也。只隨

御定歟。仰云。汝繪樣定可直之由仰畢。其事又無謂。本自改定議不可有事也。一流繪樣已如此。

補 富士山圖

補 畫工便覽卷四云。大樹家光公常令翫丹青。富士山加尊詠。今處々拜戴之。可謂家寶。慶安四年四月廿日薨。壽四十八。葬日光山。贈太政大臣。謚大猷院尊公。

補 不比等公像

補 集古十種。肖像部云。藤原不比等公像。地福寺所藏。鎌足公圖中所侍座之像。

補 真賴曰。倚子の上ニ坐セテ像ナリ。劔ヲミタリ

補 同



補同書云、藤原不比等公像藏、未詳  
補真頼曰、倚子にかゝる像なり、平緒をむき  
びたきとす

補同

補模本畫上、記して云、九條殿所藏、是即元本也  
筆者不知也、名高キ貞信公同品ニテ、拜禮一七日  
物忌云云

補真頼曰、摹本博物館ニあり、集古十種ニ載さ  
るところの藏未詳の像と甚似とす、もし同物  
歟

不比等公像

九條家藏



北神考古畫譜卷十

藤房卿像 一幀

畫刑部大輔光信山城北岩倉藤坊所藏

補同

補集古十種部首像藤原藤房卿像藏未詳

補真賴曰烏帽子を着たる坐像なり袈裟をか

けたり右手に拂子をもてり摹本博物館あり

了記して云絹本土佐刑部大輔光信筆とあり

畫上よ置色紙三枚あり賛辭剥落せり

補藤原遠賴像 一幀

補高山寺藏畫工不詳摹本博物館あり

補真賴曰烏帽子狩衣あて寫經の像あり扇の

上よ覆面を置けり

補福島正則像 一幀

補桑名家藩士藏畫工不詳絹本摹本博物館あり

?

補真賴曰上下を着たる坐像なり畫上よ雄嚴

の賛あり

補藤原惺窩像

補京都淺井三河介所藏

補真賴曰摹本博物館あり坐像あり

補不空和尚弘法大師真如親王像 三幀

補所藏者不詳

補裏書云不空和尚弘法大師真如親王ハ三幅一

對の内也正五位下主殿頭藤原隆能之畫右京大

夫俊國卿所讚辭及揮毫也此影像破損之間仰表

背師玄淨奉修補畢願以此功德聖朝伽藍繁昌先

百景補考古畫譜卷十

增補考古書譜卷十

師長寬往生佛國。法界衆生平等利濟。同法同行。出離惡趣。即以此尊影奉安畢。弘治二年八月廿一日。實觀房阿闍梨長淳。大法師定舜奉行。

補真賴曰。摹本三幀。博物館ふあり。原本ハ絹本。ふり畫上に各小傳を記せり。

補佛光禪師像

補新編鎌倉志卷三の圓覺寺云。開山ハ宋ノ佛光禪師諱祖元字子元。弘安二年ニ來朝。元亨釋書ニ傳

アリ略中。開山自畫自讚像一幅。讚文如左。者俗漢無眼目。不怕人罵。只怕人觸。懽喜花柳春風。惡發天翻地覆。有來由沒拘束。優曇花正開。峯々遠山綠。弘安七年七月三日。無學翁書于得月樓。

補同

補集古十種肖像。佛光禪師像。下野國奈須雲巖寺藏。

補真賴曰。倚子ふか、ま了像なり。

補佛國禪師像

補夢窓國師譜云。菽原天皇延慶三年庚戌。師欲繪佛光師祖頂相。先將白絹求讚。佛國迅筆書曰。大唐

搗鼓扶桑陞堂。白拈手段意當陽。唵有破家子。證峰桶羊攜歸甲州。一夕夢感佛光祖翁相見。師將筆寫其真容。夢覺後追想所夢形儀。繪之佛國題贊之。下

春村按年。元德二年庚午秋九月。出鎌倉往甲州牧莊創慧林寺居焉。雖爲小刹。持規挈矩。若臨萬衆。村春

補同

按年五。十六。

國師塔銘云。元德二年秋。牧莊羽州太守道鑑請開山慧林。

增補考古書譜卷十

補集古十種部肖像云佛國禪師像那須雲巖寺藏

補真賴曰倚子小か、を了像なり

補佛鑑禪師像 一幀

補鎌倉圓覺寺藏絹本賛與東陵

補佛勝禪師像 一幀

補繪宗沅大德寺藏摹本博物館ふあり

補真賴曰曲录ふあり、竹篋をもて了像なり

自賛あり天文廿一壬子孟夏結制日前大德徹

岫史宗九と記せり佛勝禪師ハ大德寺天啓宗

歿ふり徹岫宗九ハ大用禪師なり

通部

補辨財天像

補倭錦云春日隆親立像辨財天

補同

補同書云土佐廣周辨財天

補同

補同書云飛驒守惟久辨財天

補平治物語繪 三卷

補同書云住吉慶恩平治物語詞家隆卿三卷

補真賴曰平治物語殘缺六卷摹本博物館ふあり

了待賢門合戰一卷六波羅合戰一卷常磐卷一

卷院御所夜討卷一卷六波羅行幸一卷信西卷

一卷ふり

補集古十種部肖像云佛國禪師像那須雲巖寺藏

補同書繼

補同書云土佐光顯平治物語書繼

補真賴曰光顯の書繼平治物語ハ所謂了常磐の巻なるほノ部保元平治物語の條見合まべし

平家公達草紙 一卷

同書云土佐光正平家公達草子

躬行曰或ハハハ光信女の筆なりと詞筆者未詳

補真賴曰平家公達草子摹本博物館あり畫様古く見ゆ光信の女ハ筆とも覺ゆ

平家物語繪 八卷

畫刑部大輔光信詞杉原伯耆守

初めに直衣きたる人袴ひきて藤さくらあり  
貫雄手記云詞二條宗俊卿畫光正筆

祇園精舍卷

櫻町中納言卷

祇王祇女卷

安德帝降誕卷

賴豪所之卷

小松殿教訓卷

俊寛足摺卷

少將歸洛卷

貫雄曰右八卷以白描畫之嘉永年中古西村宗光所得住吉弘貫以爲光信書畫一筆似是

同 五卷

西洞院時慶卿記寛永九年六月六日云平家物語繪文筆者堂上衆也大膳亮讀マス所々字不知分予讀之五卷分也

同 殘缺

畫圖品目云勝以畫之

補別所繪 殘缺一卷

補東京東大久保大聖院川瀬長靜所藏

補本朝畫圖品目云平安都城圖東寺什二種神泉苑什一種

補真頼曰。地獄繪の殘缺あるべし。繪ハ七段。詞書ハ五段あり。書畫共に免てたきものなり。恐らくハ光長の繪。寂蓮の詞書といひて傳ふるものと。同類の物なるべき歟。またハその殘缺小もやあらん。ちノ部地獄繪の條。合看をべし。

補古畫目錄云。卷一。陽物くらべ繪一卷。鳥羽僧正筆。又云。勝畫ハ東寺金勝院藏。今傳フル所ヲ知ラズ。

補畫工便覽卷二云。覺猷僧正。號鳥羽僧正。天台座主。父西宮左府高明四世孫。權中納言能賢男。三井長吏。護持法輪院覺圓之弟子。令長丹青。甚有清爽。所畫人物畜獸而已。洛下東寺在一卷。其繪僧與童。

形搦。衣尻喚之。其強音而戸障子振搖之。体分明。而甚動趣在之。承保之間居留。

補真頼曰。放尻の繪ハ。勝畫ト稱をるゝのと同物あり。かノ部勝繪の條見合をべし。

平安都城圖

補本朝畫圖品目云。平安都城圖。東寺什二種。神泉苑什一種。

好古小錄云。東寺所傳二種。一種殘缺。神泉苑所傳圖。

不詳拾芥抄所載圖。脫水。古本拾芥抄圖。左右京并。

國朝書目。都城圖。卷一。同。卷一。卷。神泉。同。寺。所。傳。都。城。大。

小路寸尺。一。卷。寬。正。二。年。進。

同宮城圖

好古小錄云。宮城古圖。延曆遷都之制也。破裂十分。



増補考古書譜卷二

保部

星曼茶羅 一幀

土佐權守經隆筆

貫雄曰。絹本大幅。表襜裏面有延曆寺印。長井十足藏

補 眞頼曰。經隆の星曼茶羅。絹本なり筆細みて軽くかけた。みごとくふるものあり

補 同

補 倭錦云。弘法大師星曼茶羅

補 北斗曼茶羅 一幅

補 東寺寶翰古器目録云。古畫北斗曼茶羅一幅。康應元年五月。律師源圓寄進

補 寶樓閣曼茶羅 一幅



增補新編鎌倉志卷二

補同書云。金岡筆寶樓閣大曼茶羅一幅。

補法相宗祖師曼茶羅

補法隆寺補忘集中院良訓集記法相宗祖師曼茶羅。當寺

文庫二有之。繪師覺盛公佐別當記二見エタリ。考

銘名人。大納言教家筆也。是九條關白道家公ノ御

弟教家卿也。為能書由。藤原系圖二見エ。四條院御

宇。文曆二年乙未七月朔日。安置三經院。

法華曼茶羅 一鋪

倭錦云。土佐寂濟。法華曼茶羅

補真賴曰。法華曼茶羅ハ。右釋迦左多寶。八大菩

薩。四聲聞。次八菩薩。八供養。五大明王。四大天。梵

釋二天。五部衆。ふると。二中歷卷三小見迄より

補同 一幀

補本朝文粹卷十四云。為大納言藤原卿女。女御四

十九日。願文。慶保胤。弟子為光前白。佛言云云。及于

忌辰。奉圖繪法華曼茶羅一幀。奉書寫金字妙法蓮

華經一部八卷。開結阿彌陀般若心經等各一卷。便

於法性寺。敬以奉供養。

補同 一幅

補般若寺觀賢僧正筆。下條正雄所藏。

類聚目錄云。彌陀緣起繪。鎌倉光觸寺藏。詞書二條

類。燒阿彌陀緣起 二卷

為相卿

補新編鎌倉志卷二光觸寺類燒緣起二卷アリ。筆

者ハ。亞相藤為相。繪ハ。土佐將監光興ナリ。跋ニ文

和第四曆暮秋下旬。權大僧都靖嚴トアリ。彌陀の

增補新編鎌倉志卷二



頰燒阿彌陀緣起  
鎌倉光觸寺藏



增補考古畫譜卷十

厨子ハ源持氏ノ寄進也

補古畫目錄云。頰燒阿彌陀緣起二卷。詞書冷泉為相卿。畫土佐家。鎌倉光觸寺什物

補倭錦云。筆者不定。鎌倉頰燒阿彌陀緣起

補新編鎌倉志二卷云。光觸寺緣起二卷。筆者藤為相。繪ハ土佐將監光興也

奧書云。此繪不慮感得之間。多年所奉所持也。然此本尊十二所道場御座之由承及之間。為增利益所奉寄進彼道場也。于時文和第四之曆暮秋下旬之候而已。法印權大僧都靖嚴

函裡書云。延寶四辰年七月廿八日修復并箱奉寄進之。豊後國府内城主松平左近入道如圓躬行曰。冷泉為相卿ハ。定家卿の孫。為家卿の子。

權中納言正二位嘉曆三年七月十七日。於鎌倉薨。土佐將監光興考了所おし

貫雄曰。辛酉秋鎌倉お至もる時見之。應永頃中品の繪おり。可惜所々入墨おり云云。續群書類

從第八百四收此詞

補真頼曰。摹本博物館おあり。詞書為相卿とあ

法觀寺緣起 一卷

倭錦云。巨勢豊後法橋。八坂法觀寺緣起

本朝畫史云。豊後法橋不知其姓名。學畫於學玄阿闍梨。畫八坂法觀寺緣起

躬行按お。豊後法橋所見なし。其履歷を未詳。但倭錦お。康安中の人と云。是非を去らば

增補古今圖書集成

補真賴曰法觀寺緣起ハ或ハ八坂法觀寺緣起  
ともいふやノ部見合をべし

同

補本朝畫圖品目云八坂法觀寺緣起畫安房守仲  
氏

本朝畫史云安房守仲氏曾畫法觀寺緣起不知何  
許人

慕歸繪詞 十卷

柳庵隨筆云詞存畫逸

云云右十帙之篇目一部之旨趣記先師之行跡課  
當時畫匠偏依中懷之難默不顧外見之所嘲者也  
可慚々々可憚々々矣邊山老襟大和尚位慈俊記  
本云日來書留之本□失之間命綱嚴大僧都令書

寫者也應安元年戊申六月二日記之存學

右於□木部慈觀之以真筆之本今書寫處也于時  
亨德四年七月十九日書寫之訖右筆蓮如一四

補法相宗秘事繪詞

補倭錦云住吉慶恩法相宗秘事繪詞南都御門跡  
什物

補真賴曰南都御門跡ハ一乘院なり

補法恕繪傳 三卷

補畫土佐光茂詞書第一卷後拍原院青蓮院尊鎮  
法親王堀井宮彦胤法親王第二卷准后尚通公關  
白左大臣近聖護院道増法親王第三卷逍遙院殿  
亮空帥大納言公條三條得業公順東大寺西室與書逍遙  
院殿

增補古今圖書集成

法然上人行狀繪圖

法然上人行狀繪圖院智恩 四十八卷

補本朝畫圖品目云圓光大師繪詞四十八卷知恩院藏畫土佐光吉詞寄合書

補土佐系圖云吉光云云頭注云後伏見院朝畫法然上人傳四十八卷

補古畫類聚目錄云法然上人行狀畫圖刑部大輔吉光筆古畫目錄

補山州名跡志卷二云東山大谷寺知恩院云云當山ニ在ル所ハ伏見後伏見院當寺七代如一國師ヲ召テ浄土三經五部九卷撰擇集ノ講演ヲ御聽

聞アツテ叡感ノアマリ山門功德院ノ舜昌法印ニ勅シテ上人行狀ノ舊記ヲ撰述シ兩上皇後二

條院ノ宸筆又尊圓法親王并世尊寺家ノ良筆ニ

書シメ玉ヘリ全篇四十八卷畫圖ハ土佐吉光ニシテ今寶庫ニアリ

展閱目錄院知恩云法然上人行狀繪圖四十八卷畫刑部大輔吉光詞書伏見院後伏見院後二條院宸

翰青蓮院尊圓親王三條實量公世尊寺行尹卿同定成朝臣姊小路庶流濟氏卿外題尊圓親王筆者

目錄安井僧正道恕 右繪初め兩三卷の處ハ至極見事に見え其餘ハ弟子寄合書などよや少し

劣りたり様小見ゆり所も有之いづきも殊勝の名物畫中彼是故實等見え候

道の幸同云知恩院へ行圓光大師繪詞拜見畫 筆上莊嚴結構なり筆者目錄ハ冊子小て安井道

恕僧正筆なり筆筭外題も同筆とたほしくして作

字ふてあり。繪初り二三卷ハ殊ふこまやうなを  
ど次々ハ筆もかまるとの様也。世ハ行まると摺  
本もて引合せみれば。繪様あまりに相違をり。い  
ぶらしさふ寺僧ハ問つまば。當麻の奥院ハも一  
部まべり。もし夫を寫したるふやと答へぬ  
名畫拾彙云京師知恩院藏。法然上人傳畫卷。吉光  
所畫。其詞伏見上皇及親王公卿之書也。是正和年  
間之事

補倭錦云土佐吉光知恩院什物。法然上人畫傳内  
數段。詞伏見院。後伏見院。行尹。後二條院。尊圓親王。  
定成。濟氏。實重

補同書云。邦隆知恩院什物。法然上人四十八卷傳  
内數段

補同書云。妙小路長隆。法然上人四十八卷傳内數  
段

補同書云。土佐光顯。知恩院什物。法然上人四十八  
卷傳内數段

補同書云。妙小路長章。知恩院什物。法然繪傳四十  
八卷内數段

補同書云。飛驒守惟久。知恩院什物。四十八卷傳數  
段

笈埃隨筆後編卷四云。此繪傳函古代の物ふて。ま  
この底ハ。足利尊氏公寄進の朱書あり

補與清曰。世ニ行ハル、摺本ハ。當麻ノ本モテ。  
大和ノ西巖寺古閑和尚ガ寫サレタリト刊  
本ニ。繪入ノ大本ト。詞ノミノ小本ト。翼賛ト三



法然上人行狀繪圖  
智恩院藏

種アリ

躬行曰好古小録小圓光大師繪傳四十八卷畫  
光信書當時公卿集書と記し。畫圖品目に知恩  
院繪傳を吉光筆當麻のを光信筆とふし。名畫  
拾彙ハ知恩院のを吉光一筆となし。あど  
いづをもいみじき誤あり。此知恩院傳ハもと  
より一筆ハあらざといへども。倭錦の六人合  
作の説もまこと信がとし。そハ畫工の年歴を推  
案るにまづ邦隆ハ分脈ハ中務少輔隆親男。經  
隆の弟。顯文抄ハ安元頃の人とを。長隆ハ分脈  
ハ左中將宗信卿四男顯文抄ハ文永頃の人と  
せり。吉光ハ正安中の人なる事論をあらすべく。  
光顯惟久ハ貞和の頃。長章ハ時世未詳ハ倭  
長錦隆ハ

中の男延慶さて邦隆の安元より光顯惟久の貞  
和までを算ふるハ百七十年を經たり。合作の  
年序餘りに夥し。らむや。名畫拾彙に。此卷を  
正和中の作とせらハさる事なめれど夫もな  
ほ貞和ハ卅餘年の昔也。疑ふべし

同

當麻寺傳

四十八卷

補本朝畫圖品目云。圓光大師繪傳四十八卷。當麻  
寺與院藏畫土佐吉光詞寄合書

倭錦云。土佐吉光當麻寺與院什物。法然上人四十  
八卷一筆詞。後伏見院。後二條院。定成其外  
土佐系圖云。吉光號土佐經隆六男。後伏見院朝畫。法然上  
人傳四十八卷

補寺社寶物展閱目錄

當麻寺與院

寺云。法然上人行狀繪

當麻四十八卷傳表  
題法然上人行狀繪  
圖あり



圖四十八卷畫詞寄土佐家伏見院後伏見院宸翰  
 後二條院御代筆外題尊圓法親王△伏見院  
 叡山舜昌法印ふ命じて大師の繪傳を作らしめ  
 らる。今の知恩院の什物是より其後帝別ふ寫を  
 命ぜらる。禁裏にさしれらる候處舜昌知恩院  
 を住持之節又是を賜九舜昌也第十一代誓阿  
 上人圓光大師像を此地ふ移せし時此本をも當  
 地へ持參る。十種の寶物の一ツなる。十種の寶物  
 とハ阿彌陀の像大師の袈裟直筆の選擇集持蓮  
 花大師の遺骨同肉附の舍利佛舍利松影の硯月  
 輪殿の天目及此繪傳也△畫筆者土佐吉光ト相  
 見候旨内記申候。但知恩院之繪詞傳とハ畫體少  
 少違有之候。印行之繪詞傳者此本を寫候由ふ御

座候

道の幸嗣云。奥の院ふゆきて兼く聞つる。法然上  
 人の行狀をよる。繪ハ土佐家詞伏見院後伏見院  
 後二條院三帝の宸翰ふて。後二條院ハ御代筆世  
 尊寺定成朝臣なり。外題ハ是も尊圓親王芳翰也。  
 世に流布せる本ハこきを摹をしなるといふ。さ  
 ても伏見院叡山の舜昌法師ふ仰せて。此詞を作ら  
 せ繪ふりつし。新ふ造立をさせ給ひしハ。知恩院  
 のみく侍り。また別ふ一部寫さしり御秘藏有し  
 を。後ふ舜昌が知恩院住持の時に賜る。舜昌ハ  
 第九世也。第十一世誓阿上人の時。圓光大師の像  
 を此院ふ移し、をよりら。此本をも持來るとい  
 ふ。遠碧軒記云。法然ノ四十八卷ノ縁起。和州當麻

西巖寺古閑ハ西岸  
寺古欄の誤りや

ニアリ。知恩院ニアルト同事ナリ。知恩院二代隱  
居シテ當麻ニ居ラル。方丈ノ縁起ヲトリテノキ  
テ當麻ニオカル。知恩院ニハ漸出來ル  
擁書漫筆云。世ム行まろ、摺本ハ當麻の本もて  
大和の西巖寺の古閑和尚の寫されたりとぞ  
補廣行曰。畫吉光なるべし。知恩院の繪詞傳と  
畫體少し違ひ。印行の本ハ此の本に寫しなり  
躬行曰。予此繪傳をみることに數次。畫工一手な  
る事論おし。但吉光世系ハ詳ならび。土佐系譜  
よハ經隆の三男。正安中の人とせり。分脈を勘  
るふ。經隆ハ隆親の一男。隆能の孫にして。承安  
頃の人なり。承安より正安を算ふるに。まさ  
み百廿年ふ餘なり。父子二世ふして。豈如此の

年歴あらむや。必誤あるべし  
元榦曰。印本ハ報恩寺古澗の摸。詞書ハ北向雲  
竹なり

補同 四十八卷

補古畫目錄云。法然上人四十八卷傳。從四位下刑  
部大輔飛驒守光秀

補同 摹本 四十八卷

補古畫目錄云。法然上人繪傳。四十八卷摹本。狩野  
周信同古信

補同

補黑谷金戒光明寺藏

補同

補百萬遍寺藏

曾補考古畫譜卷下

補真頼曰。金戒光明寺。及知恩寺一名百萬遍寺の所藏なる。法然上人繪傳ハ。山科元幹の説によ據りて掲載す。

補同 殘缺三卷

補古畫目錄云。法然上人繪傳三卷。每巻標題黒谷上人。繪傳釋弘願。御家人坊主中村家藏。寛政戊午觀于屋代弘賢家。

補真頼曰。此繪傳三巻予こゝを見了。このりち一卷ハ重複あり。第三の巻尾ハ記して云。黒谷上人繪傳第三。釋弘願と篇目あり。其他二巻ハ篇目あるし。又巻尾ハ記して云。右法然上人繪詞巻物。新見氏ヨリ借用。高島千春ヨリ出ス。由繪詞とも筆者所傳あり。天保十一庚子年六月

上旬摸會心齋と見ゆと。古畫目錄の説によま。御家人坊主中村某の所藏と云はゆ。

同 殘缺二卷

補本朝畫圖品目云。法然上人行狀記。殘缺二巻。畫者不詳。武州増上寺什。

補圖畫一覽下巻云。法然上人繪傳一卷。殘缺二巻。繪ハ吉光詞ハ後二條院宸筆ノヨシニテ。イヒシラズミゴトナルモノナリ。書ツギ梶井宮空性法親王。

倭錦云。土佐吉光法然上人繪傳殘缺詞。後二條院貫雄曰。此巻梶井宮空性親王の書續あり。東武増上寺の所藏也。

補真頼曰。法然上人繪傳殘缺二巻。繪吉光詞書

北極古畫譜

後二條院宸筆本摹本博物館にあり。卷尾に古筆了珉、畠山牛庵の鑑定書を模寫す。

同

補 圖畫一覽下卷云、法然上人縁起繪、尾張國光明寺藏

補 古畫目錄云、法然上人縁起、尾州光明寺藏

類聚目錄云、法然上人縁起繪、尾張光明寺藏  
奉村曰、己上二種ハ、黒谷上人傳或ハ九卷傳と稱するもの成べし

補 同

補 遺徳法輪集卷五下云、法然聖人繪傳、土佐將監筆、世尊寺行俊銘、右常陸國鹿島郡鳥巢西派無量壽寺藏

補 同

春村曰、按廿四輩記、作拾遺古徳傳、可從歟

補 新編鎌倉志卷七云、安養院ハ名越ノ入口海道ノ北ニアリ、祇園山下號ス、浄土宗知恩院ノ末寺ナリ、寺寶繪傳二幅、土佐筆法然上人一世ノ狀ヲ圖畫ス

補 同

四幅

補 古畫目錄云、法然上人縁起四幅、京都知恩院藏  
法然上人往生繪

中原康富記云、寶徳三年十月十三日、今日仁和寺本願寺院相傳之法然上人自筆、往生之繪被持參、仙洞有叡覽云云、壽永源平合戰之後、熊谷次郎入道奉迎法然上人、尋往生地儀、上人來迎之姿書給

魚尾考古畫譜卷一

蓮生了、其後熊谷代々相傳了。近來此繪本願寺相承之。故被仰寺家有觀覽。名畫拾遺云。法然上人源空。姓漆間氏。作州稻崗人。建曆二年正月廿五日化八十。能圖佛像。或描自相。未流諸寺有寶藏。

躬行按入山城名勝志卷八。葛野郡本願寺。今爲小菴。在永圓寺中云。

保元平治物語 殘缺

倭錦云。畫住吉慶恩。詞家隆卿三卷。

六波羅行幸卷 雲州侯 藏 信西獄門卷 伊勢福島 大夫藏

三條殿夜討卷 本多修 藏 六波羅合戰粉本 不具着 色己失

原所在

同書續 二卷

同書云。土佐光顯平治物語書繼

待賢門合戰卷 松山 侯藏 常磐卷 舉母内 藤家藏

躬行曰。此繪今存者。處原本三卷。書續二卷。ともし小平治物語にして。保元物語ハ早く佚し。了。但家隆卿ハ嘉禎三年八十歳薨ぜらる。慶恩の世系履歷さたらぬよ。ハ。まてふとてろ。と。と。に。い。へ。る。

補法師歌仙圖 一卷

補古繪目錄云。法師歌仙圖。鳥羽僧正歟。京都土佐守家藏。

補堀河夜討 二卷

補畫土佐如慶詞書筆者未詳。所藏未詳。

補真頼曰。下卷の未ふ土佐内記筆とありて廣

通の印を捺せり。畫みごとくあるものなり

本間孫四郎繪 一卷

書畫筆者未詳 模本逸詞書

**補** 真頼曰。本間孫四郎繪一卷。摹本博物館にあり。卷尾云。右本間孫四郎繪。以官庫摹本令摹寫了。文政十二年己丑十一月九日。會心齋

**補** 保元平治物語 殘缺

**補** 圖畫一覽下卷云。光顯筆六波羅行幸。常磐の卷。高松殿夜討。信西獄門

**補** 真頼曰。保元平治物語繪ハ。生やくより散佚せしものと見ゆ。常磐の卷といひ。高松殿夜討の卷。信西繪詞。待賢門合戰繪などいひて。卷の名をもてはとへたり。依て卷の名をもて各

部にもいだせり。まゝへノ部平治物語の條見合まべし

**補** 貫義曰。平治物語殘缺ハ。光顯の筆にあらざりて。住吉慶思なるべし。倭錦も慶思からべしといふなり

保元平治屏風 一雙

刑部大輔光信筆

**補** 繪光信所藏者不詳。摹本十二枚博物館にあり。**補** 真頼曰。此繪保元平治屏風といへり。ハ誤なり。保元合戰繪屏風といふべし

保元合戰屏風 一隻

倭錦云。春日光長。保元合戰屏風片シ

同 殘缺

同書云土佐光弘保元合戰屏風

補真賴曰櫻井源太夫藏繪土佐光弘摹本博物館  
館小あり。卷尾云保元物語合戰之内三枚土佐  
中務丞光弘筆と内記廣定鑑定書此度出來櫻  
井源太夫手小入天保十二辛丑五月廿七日勝  
川雅信摸

同小屏風 一雙

補所藏者不詳

補真賴曰所藏者不詳摹本六枚博物館小あり  
卷尾云余此度雅樂助と申遣と嘉永元年九月  
九日狩野洞庭より來ると見ゆと

補同屏風 一雙

補倭錦云春日光長保元合戰屏風片シ

狩行曰本朝畫史云狩野雅樂助印有綱隱之字勢仲子也とありて其名をのせバ

補保元平治物語繪屏風 一雙

補繪光信松平出羽守藏

補真賴曰摹本十二枚博物館小あり人物もひ  
さし

法隆寺金堂壁畫

寺傳云鞍首止利所畫也

日本紀云推古天皇十三年夏四月鞍作鳥爲造佛  
之工

貫雄曰左藥師淨土右彌陀淨土白壁上以畫之  
加彩色古雅不可言看上世之畫風無出於斯右  
者

補真賴曰法隆寺金堂壁畫摸本博物館小あり  
寺傳云鞍首止利所畫といふハ信じがと

增補考古畫譜卷一

法隆寺金堂壁畫  
法隆寺藏



增補考古畫譜卷一







補考書評卷十

きまぎ也。新圖ハ大坂の繪師法眼周圭。文字ハ今の柳原殿とぞ

補真頼曰。繪殿の繪といへるハ太子傳の繪を

同寶物圖 三卷

田中訥言所畫藏于本寺

補圖書一覽下卷云。法隆寺寶物圖一卷

補同 十一卷八葉

補法隆寺什物圖摹本十一卷。外ハ八葉。博物館あり

補真頼曰。法隆寺什物圖ハ。器物及繪等なり

補鳳凰堂壁并扉の繪

補倭錦云。宅磨爲成。平等院鳳凰堂壁并扉繪。題號

俊房卿

補真頼曰。平等院壁畫田中訥言の模寫をる所の本をべく拾五葉。博物館あり。八相成道一葉上品。生二葉。同中生二葉。同下生二葉。中品上生二葉。同中生一葉。下品上生二葉。同中生一葉。其他二葉。凡拾五葉なり。是ハ文化年中松平定信朝臣の所望よりて。畫師田中訥言のうつせるなりと。函よ志るしとぞ

補又曰。鳳凰堂壁畫并扉繪の事ハ。委くハひノ部平等院鳳凰堂壁并扉繪の條ハ掲載せり。見合をべし

補法勝寺金堂扉の繪

補古今著聞集卷十一云。鳥羽僧正ハ。近き世ハ。

曾補考書評卷十

ならびあき繪うきあり。法勝寺金堂扉の繪うき  
たる人あり云云

補 法成寺扉の繪

補 法まぶく草云。京極殿法成寺などみるこそこ  
ころざしといふまじ。事變じふけるさまハあハま  
なれ略中 正和の頃南大門ハ燒ぬ。金堂ハ其後たふ  
まふしとるまゝふり取立るまざもなし。其かゝ  
とて残りたる丈六の佛九體。いとたふとくあら  
ひれましまを。行成大納言の額。兼行が書ける扉。  
あざやうに見ゆるぞあまもある

補 法成寺塔の柱扉の繪

補 續本朝文粹卷十二云。法成寺塔願文。實綱朝臣  
弟子南瞻部州大日本國關白左大臣從一位藤原

朝臣某誓首和南三世諸佛云云。每柱圖繪法花曼  
荼羅。每扉圖繪十六羅漢。多聞持國天。十羅刹。哥梨  
底母。散晦鬼神。堅牢地神。迦毗羅神。又法華三昧堂  
一字云云。其四柱間各圖繪法華曼陀羅。又圖四面  
之扉。以一乘之文云云

補 法隆寺玉虫厨子臺の繪

補 法隆寺藏

補 廣大和名勝志平群郡云。法隆寺金堂東正面玉虫  
厨子觀音。推古天皇御守本尊也

補 真頼曰。玉虫厨子臺繪ハ。法隆寺金堂ハあり。  
其の繪圖の大畧を云ハ。竹林ハ餓うる虎あり。  
其の餓をあらハルむ人あり。己が身を投じて。  
その餓をたまくるさまを。密陀僧をもく圖畫

増補考古書譜卷一

せり因て按ずるに。此の圖ハ薩埵王子の身を捨て、餓虎を濟ふ圖あるべし。薩埵王子の事ハ、金光明最勝王經第二十六捨身品、まゝ菩薩投身餓虎起塔因縁經ハ、梅檀摩提太子とあり。恐らくハ薩埵王子と同人あるべし。

補 ほととぎすの繪

補 畫信實博物館藏

補 眞頼曰。此の郭公の鳥ハ、永井信濃入道信齋といふ人のもたしむを、いらに志けたるかあらむ。都の三條なる商人、世繼某某家名ハ兵衛某屋名ハと、おもとに、年頃ありて、岐阜屋のほととぎすの鳥とて、世にきこゆ高うまゝを、その家

やうくたゝろへゆき、その繪もゆくへ志らぬとぞきしむ。古川躬行都にありしころ、式部丞菅原為恭がもととふ。この繪を見ておもへらく、はやうこれ人のものとなれまゝありけり。その後ゆゑありて、為恭ハ、ゆくへ志らぬと成ふし時、その親族ある多忠誠といへり。人その家のことはうらひて、ひめれたけり。繪などうまけたるとき、この繪を長井十足がむひえたりありと、躬行がおのれあらたられしことありき。

補 同

補 源平盛衰記卷二清盛息女の云、昔忠平中將ノ扇ニ書タリケル郭公コソ、扇ヲヒラク度ゴトニ、

増補考古書譜卷一

郭公トハ啼ケルナレ

補 畫工便覽卷三云、忠平中將不知何人、歌人至于丹青妙、扇面畫子規、每其扇開有聲而鳴、及度々云

補 鳳凰御障子

補 源平盛衰記卷二 清盛息女云、御娘八人御座ケルモ、皆取々ニ幸シ給ヘリ、一ハ本ハ櫻町中納言成範卿ニ相具シ給シ程ニ、彼卿下野ヤ室ノ八嶋、被流後花山院左大臣兼雅ノ御臺所ニ成給ヘリ、實ハ成範卿ト左大臣家トハ、兄弟ノ契ニテ、無内外中也ケリ、左大臣ノ北方モオハセテ、二三年男上人ニテ、常ハ心ヲ澄シ、ヨロヅ倦氣ナル有様ナリケレバ、直事ニ非ズイカニモ子細御座ニ

コソト、人皆恠ヲ成ス、大臣或時御乳人ノ三位ノ局ヲ召テ御物語アリ、去々年ノ春、成範ノ女房ヲ雲ノ上ニテホノカニ見タリシヨリ、心苦思アリ、男ノ習ハ后ヲモ奉、盜國ノ騷トモ成ゾカシ、况是ハ左モ右モ謀リ出シテ思ヲハルクベケレ共、中納言ノ爲ニ後口闇事ハ有マシ、兄弟ノ契リナガラ相思ノ情不淺、縱ヒ我思フ女成トモ所望セバ慰ベシタゞ、餘所ナカラ無由見ソメケシ事コソツラカリケレト思ヘバ、色ニ出テ汝ニサヘ心苦キ思ヲ付ル事コソ不便ナレナンド、徒ノ忍ノ御物語アリ、三位局宿所ニ歸テ、大臣ハユ、シキ大事ノ病ハツキ給ニケリト、此局ノ妹ノ侍從ヲ呼テ、此事ヲ語ル、侍從申様、其事ニヤ一日中納言殿

ノ仰ニ大臣殿ノ御景氣ハイカニモ人ヲ戀給ト見エタリイカナル人ニ思ヲ殘シ給ヤラン哀成範ガ妻ナンドナラバ奉リナン隔ナク申昵ヒ奉ル詮ニハ是コソ實ノ志ナレト被仰カバカリ奉思トハヨモ思給ハシト御心苦氣ニ候シゾヤ參テ申テミントテ立歸リツハ中納言ニ私語申タレバ打咲給テ去バコソ能見タリケレ嬉ク聞セ給タリト三位局ヲ召見參メ宣ヒケルハ無隔カク聞エ侍ル事神妙ニコソ是へ可奉入カ其へ可進カ御心ニ相叶ハン事ヲ計ヒ給ヘト三位申ケルハ理ナキ御志ノ色ニ顯ハレ御座御事申モ中中愚ニ覺テコソ候へ是へ入進センモアレへ入ラセ御座サンモ旁其憚アレバ御心安モ思召バ

カリ只離別シ給ト御披露候ヘカシト中納言宣ケレバ避ト申タラバ我志ニハアラジイカニモ奉公ノ爲ニコソ悲キ別ヲセンズルニト聞エケレバ三位其ハニ三日モ過侍テコソ此由ヲハ委申入侍ラメ兼テ申タラバ定テ御心元ナク思召ベシト計ヒ申ケレバサラバ其義ニコソトテ中納言北方ニ此由ヲ被申ケリ女房ハ事ニ觸テ我ヲ捨ントオボスニコソ係ル様ヤ有ベキト無限涙ニ咽ビ給ケレバ中納言モ袖ヲ絞テ此世ニハ隔ナク志ノ色ヲ顯シ後ノ世ニハ繫念無量劫トカヤノ罪ヲモ道レ給ヘカシト爲我爲人カク思ヒ侍ルニヤ愚ノ御事ニハ非ズト様々誓ヲ申給ヘバ其上ハ不及カトテ心ナラヌ別ヲシ給ヒケ

ルコソ絲惜ケレ。此由カクト披露有ケレバ。三位  
局ノ計ニテ。迎取給ヒケリ。大臣ハウツ、ナラズ  
トゾ思ハレケル。中納言ハサスガ飽カヌ別ノ道  
ナレバ。忍ノ涙ヲ流シ給ヒケリ。彼朱明ガ妻ヲ避  
シ志。管寧ガ金ヲ斷シ情モカクヤト覺テ最ヤサ  
シ。其後三位局大臣ニ角ヤト申ケレバ。大ニ驚キ  
給テカクゾ送給ケル。刃クフベキ方モ渚ノウツ  
セ貝。クタケテ君ヲ思フトヲシレト。中納言此歌  
ヲ見テコソサテハ御心ニ相叶給ケルヲト。歎ノ  
中ニモ悦ビ給ケレバ。例ナキ情也ト人申ケリ。成  
範中納言ノ北方。花山院御臺盤所ニ成給タリト。  
世ニ披露有ケレバ。何者ノ讀タリケルヤラン。四  
足ノ柱ニ「花ノ山高キ梢ト聞シカド。蚕ノ子カト

ヨフルメヒロフハト。此御臺所ハ。御美モ嚴ク情  
ニ深ク御座ケル上。天下ニ類ヒナキ繪書ニテゾ  
御座ケル。紫宸殿ノ御障子ニ伊勢物語ヲ繪ニ書  
セ給御事アリ。昔貞員親王ノ生レ給ヘル御ウブ  
ヤニテ。人々歌讀ミ侍ケル中ニ。御伯父方ノ翁ノ  
我門ニ千尋アル竹ヲ植ソレバ。夏冬誰カ隠レザ  
ルベキト。讀タリケリ。御ウブヤトハ親王ノ御産  
所也。其ウブヤノ前ニ鳳凰ノ千尋ノ竹ニ居タル  
ヲカ、セ給タリケルカ。餘ニ目出度魂ヲ書コメ  
サセ給タリケルニヤ。其後紫宸殿ニ時々笙ノ笛  
ヲ調アル聲アリ。人々此ヲ恠テ。忍テ御覽シケレ  
バ。千尋ノ竹ニ書給ル鳳凰ノ鳴音ニゾ侍ケル。難  
有御事也

補真頼曰盛衰記の文に據て按るに御産屋の御屏風は竹の鳳凰のかとを繪らくこと佳例と見えたり

郭公琵琶

黒田家所藏

撥面畫青山明月瀑布之圖傳云平經正之器

鳳凰孔雀繪

倭錦云巨勢有康鳳凰孔雀二幅對

本朝五常圖 一卷

畫圖品目云畫者不傳

畫圖品類云直方按ふいと後のを此なるべし

法華經暉卷繪

倭錦云春光長慈鎮和尚筆法華經口畫

躬行曰青蓮院慈鎮和尚諱慈圓號法性寺座主

法性寺關白忠通公男嘉祿元年入滅七十一

補法華經廿八品大意繪

補東鑑卷九云文治五年九月十七日云云次嘉勝

寺未終功之以前基衛四壁并三面扉彩畫法華經

廿八品大意本佛者藥師丈六也

補真頼曰法華經廿八品大意の繪ハ即嘉勝寺

の壁畫なりかノ部見合をべし

補法華八塔圖 八鋪

補太子傳玉林抄卷十九法隆學問寺御舍利云法

華八塔八鋪箱ニ入之

補法華經の佛の繪

補元亨釋書卷九云釋平願播州人也事性空法師



持法華無佗業屏深山讀經一日暴風吹倒廬願被  
壓專心念經忽神人來從破隙引出願摩頂慰誘曰  
夙殃故遭此禍經王力得全身不生惱恨益勤持念  
必生清泰今之壓是轉輕受也願從此持誦彌堅便  
捨衣孟書法華圖佛像於河壩開無遮會作誓曰我  
若依此善業當生安養願於此地必得奇瑞明日河  
邊生白蓮花千餘莖香氣馥郁聞見莫不嗟歎

補法華經繪

補畫工便覽卷三云七條匠作信隆室號七條院清  
盛第六女工善繪結花常讀法華其經文畫大意翠  
黛紅顏美麗端嚴也

補真賴曰源平盛衰記卷二ふハ清盛公の第六  
の女畫をよくものせしことら見迄とまど法

華經の繪をかきけりことハ見とむ

補寶德年中舞樂圖

補古畫類聚目錄云寶德年中舞樂圖

補古畫目錄云寶德年中舞樂圖三條宮書御室繪  
舞銘後花園院宸筆

補真賴曰寶德年中舞樂圖ハ委しくハふノ部  
舞樂圖の條よいどせり見合をべし

補本能寺寶物圖 一卷

補摹本博物館ふあり

補牧童圖

補倭錦云栗田口隆光牧童

補北條時政像

補鐙倉某寺藏

補柳菴隨筆云

補柳菴隨筆云。壬辰三年保仲夏仲秋之際。予數日鎌倉小遊び。一舊刹小客として。日々古簿蠹簡を探るを以て。消景の態とあひ。不測北條累世の像を得たり。是集古十種以下。諸人いまだ摸傳ふる者なき處なり云云。北條遠江守時政補真頼曰。束帶の像なり。委しくハ柳菴隨筆小就て見ればし。

補北條泰時像

補鎌倉某寺藏

補柳菴隨筆云。北條武藏守泰時朝臣

補真頼曰。烏帽子狩衣を着たる像なり

補北條時氏像

補鎌倉某寺藏

補柳菴隨筆云。北條修理亮時氏補真頼曰。束帶の像なり  
補北條時頼像  
補鎌倉某寺藏  
補柳菴隨筆云。北條相模守時頼補真頼曰。束帶の像なり  
補北條貞時像  
補鎌倉某寺藏  
補柳菴隨筆云。貞時補真頼曰。束帶の像なり  
補北條宣時像  
補鎌倉某寺藏  
補柳菴隨筆云。宣時以上六人。之を全身あり今省

曾補考古書音卷二

寫を

補真頼曰束帶の像なり

補北條時頼法體像 一幀

補溝口家藏絹本摹本博物館にあり

補真頼曰坐像あり畫上の置色紙あり僧靈見の  
賛辭あり

補同

補古畫類聚目錄云最明寺時頼入道像明月院禪  
興寺藏

補北條早雲像 一幀

補相摸國箱根早雲寺藏畫工不詳

補真頼曰畫工ハ必當時の人なりべし

補北條氏綱像 一幀

補同國同寺藏畫工不詳

補北條氏康像 一幀

補同國同寺藏畫工不詳

補真頼曰氏綱氏康の像の畫工のなれば當時  
の人ありべし

補細川澄元像

補集古十種肖像部源澄元朝臣像加州家藏

補古畫類聚目錄云細川澄元像加州家藏

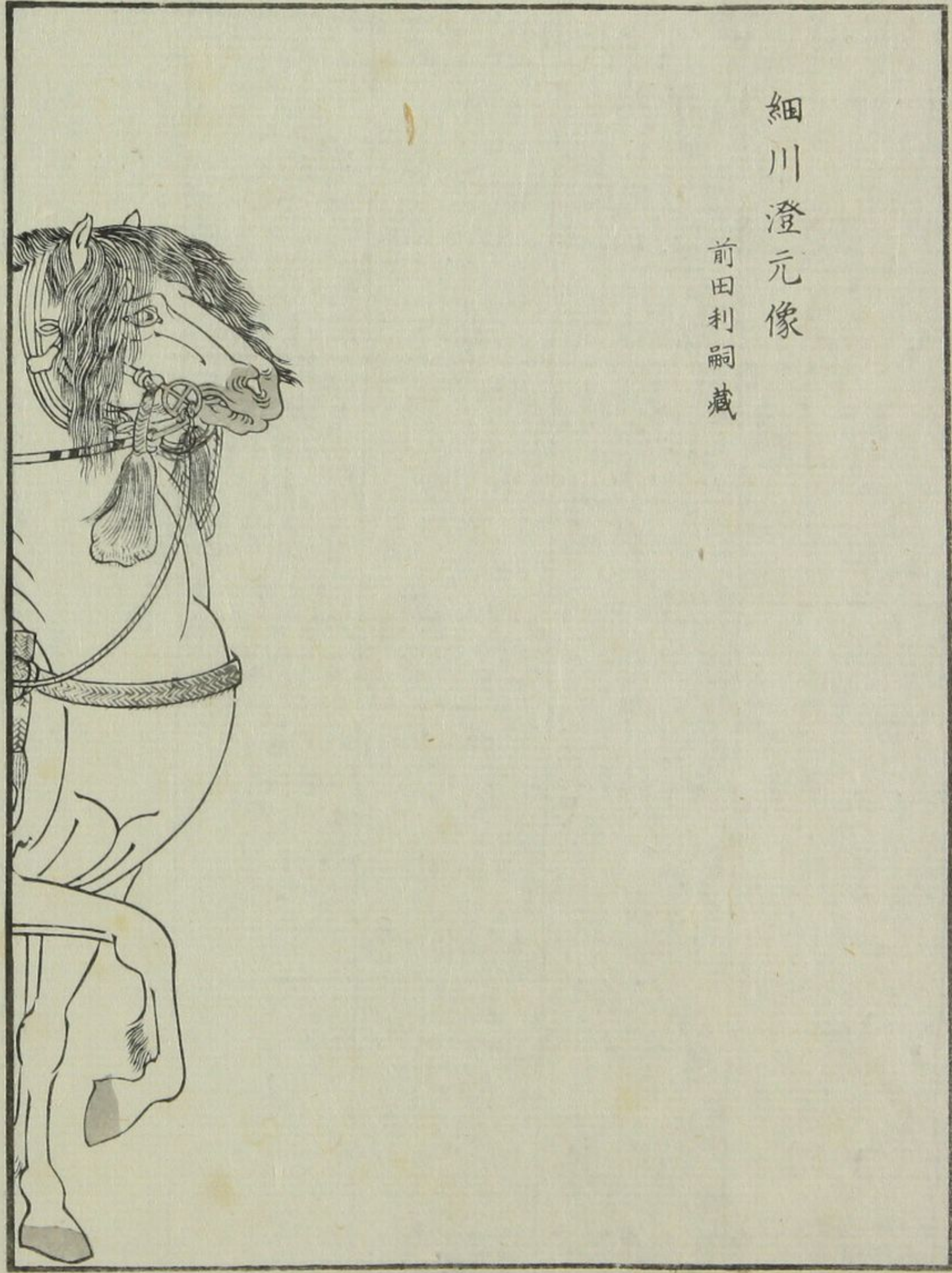
補本朝畫圖品目云細川澄元像畫光信加州侯藏

補翰林胡蘆集卷四源公澄元甲冑壽容 日照金

鞍倚馬上定天下射斗間出匣中其提來也驅使豊  
城令其騎出也喚起隆準公亂臣賊子雖在蕭牆内  
霸氣雄心輒掃敵陣空處宴安未忘死生解道貴介

博物館ノ摹本ニハ  
法眼元真筆トアリ

細川澄元像  
前田利嗣藏



如優曇跋臨戰場不變神色。咲他大夫求山鞠窮所  
聞尊氏甲冑留像。復觀郎君畫圖命工略下  
補真賴曰。甲冑は馬上の像あり。右手に長卷  
をもてり。畫上ハ賛辭あり。永正丁卯十月吉日。  
宜竹老衲景徐周麟奉命謹賛と見ゆ。り。摹本  
博物館あり

補布袋和尚像

補倭錦云。粟田口隆光布袋

補同

補同書云。宅磨榮賀。滝見布袋印有

補真賴曰。此の繪絹本なり。瀧見布袋といふた  
ノ部見合さべし

法然上人像 一幀

本朝畫史宅間澄云。九條藤相公使澄賀。寫法然上  
人之真。今在嵯峨二尊院。所謂足引之影是也。凡欲  
畫上人像者。皆因之

補同

補十六門記設第十云。太上法皇ハ。聞法隨喜ノ餘ニ。

右京權大夫藤原隆信朝臣ニ勅シテ。上人ノ真影  
ヲ寫サシメテ。蓮花王院ノ寶藏ニ收メラレケル

補知恩院記錄云。後白河法皇勅請法然上人參法  
住寺御所。奉授一乘圓戒。往生要集披講時。法皇被  
催御感涙。御信仰之餘。勅詔右京權大夫隆信朝臣。  
法然上人之真影圖給。蓮華王院寶藏納給也。其真  
影今有知恩院也

補同 一幀

補 倭錦云。宅磨澄賀。法然上人像。二尊院什物。

補 集古十種肖像云。圓光大師像。嵯峨二尊院藏。

補 京都巡見記卷上云。小倉山二尊院御影堂四間半六

間。圓光大師足引之畫像。琢磨法眼筆。關白兼實宅

ふ。圓光大師入湯の時。足を投出し被居し處を

繪し寫し置き。或時大師に兼實見せ申さし。ふ。

圓光大師迷惑なりとて。畫像ふ向ひ加持ありし。

ふ。右の畫直りし故。不思議の事ゆゑ。其儘ふて足

引の御影と號せし。云傳ふるなり。

補 真頼曰。坐像ふて珠數をもてり。像の前ふ錦

の袋あり。

補 又曰。嵯峨二尊院什物。摹本二種。博物館ふあり。

し。卷尾云。嵯峨二尊院藏。世稱足引御影。安置

於影堂者。圓滿院祐常法王所影寫也。今就原本。而撮寫於洛北紫野龍寶山中瑞峯精舎南軒下。天保十一年龍集甲子夏五月日。

補 同

補 東大寺寶物目錄云。圓光大師影。觀真房筆。

補 寶洲和尚像

補 天陰語錄部贊云。前建仁寶洲和尚慈像贊。右前

住寶洲大和尚。文明甲午臘月初六。示滅於播陽栗

里慈恩。行年七十有三也。其翌年徒弟宗淳藏主。肖

慈像。需題其上。老拙自幼入師室。熟喝。瞋拳無有。虛

日。可謂恩大難酬也。忽披斯橙。子不勝感喟之至。掩

淚以書云。

末部

補曼荼羅繪

補畫工便覽卷三云平相國清盛任安藝守號淨海元永二年生父刑部卿忠盛淨海建立高野大塔修理畢而詣于彼地而以金堂曼荼羅手自被圖至三八葉中尊寶冠者自頭出血以之所模寫也西曼荼羅者繪師常明法印被命云云養和元年閏二月四日薨六十三高倉帝至延寶元五百有餘年

補真頼曰此ノ部頭血曼陀羅及リノ部兩界曼荼羅の條見合をべし

補同 一幅

補智證大師傳云大中九年十月初三日入金剛界九會大曼荼羅道場沐五智灌頂水授學大瑜加根

本大教王最上乘教并兩部諸尊瑜加及蘇悉地羯羅大法等畢。兼召供奉畫工刁慶等。於龍興寺圖繪今上御願大曼荼羅像。青龍傳法和尚始終檢校。僧圓覺專勾當。為國竭力。

補同 一幅

補東寺寶翰古器目錄云。大曼陀羅御修法。本尊大破。永仁四年。箱二入。一幅。

補同

補玉海云。建久二年九月廿七日。此日中宮御祈始。略中本尊曼陀羅秘本并四天王等像新圖之繪師法橋類成云云。

補同

補天聽集云。天文四年十二月七日。自廬山寺惠心

僧都之筆曼陀羅大。如當麻寺。懸清涼殿。一夜留之。閑二念佛云云。十四日廬山寺曼陀羅上。三色紙形。朕染筆帥大納言祝着之。由申云云。

補同

補倭錦云。巨勢有久曼荼羅。清涼寺什物。

補同

補圓光大師行狀翼贊卷五十八云。長西錄云。珍海東大寺又云。理法房珍海。三海房月法。兩人覺樹大僧都弟子云云。一書云。僧都珍海醍醐寺僧。而住禪那院。性能畫舊記。曰其師三寶院定海欲教珍海畫曼陀羅圖。珍辭之一夜。山神入珍夢。責其不肯畫。而自橋上蹴倒。珍醒而驚。則寫曼陀羅圖。然其所被蹴之痕甚痛。遂至死矣。吾遊醍醐寺。有觀之畫。文殊粉



本其裏有建仁二年十月珍海筆之字。筆法上古之風而已。或曰住東大寺也。一書云。前禪林寺永觀律師滅後住禪林寺。故云後禪林寺上人也。然醍醐東大所住異ナレドモ。聖寶僧正本。東大ニ住シ。東大亦密宗ヲ兼テ。兩寺同ジク顯密兼學シ。二處互ニ諸事相通ス。サレバ處異ナレドモ。人ハ同ジキニヤ。サレド東大珍海ハ。時代殆古ケレバ。醍醐ノ珍海ハ別人ナルベシ。

松嶋日記

三卷

畫圖品目云。畫光俊

清少納言繪詞一卷同書歟

關奥書云。右三卷之日記號松嶋日記。繪圖者土佐光俊蒙仁治皇帝之勅畫之。今借道朝親王之御本寫之畢。

躬行按ふ。玉うつまふ。清少納言が年老て後。奥の松嶋子下りけり道の日記として。やがて松嶋れ日記と名づる者たるもの一冊あり。めづらしく。ねほえてみけるに。早くいじき偽書ふて。むげに拙く見所ふきものなり。さるハ近きほど古學ををるもの。くち法きとぞ聞えとる。まべて近き年ごろハ。さるいつたり書を作り出た。たぐひのふとにねほうる。えうなきまさびふねほくれいとまをいれ。心をもくだきて。世の人をまどまさんとまらハ。いうあるたふま心よりあるらんと。識さまら。是もさるたがひのものとぞねほゆる。但土佐守光俊所見ありし。

魔佛一如繪詞 一卷

書畫筆者不傳西村宗光所持後

爲舉母内藤家有  
補圖畫一覽下卷云。魔佛一如圖一卷。畫經隆。詞書慶運。西村藐庵所藏。八寸五分許アル卷ナリ。詞書最丹波國篠村といふ所ニ住たしける僧。深く行ひけり。小云云トアリ

躬行曰。此卷ハ天狗古鷹どものよりつどひて。管絃酒宴さまぶ。ふちをびたさる。さまをかけり。書畫時代もふるく。能品あり

補廣尚曰。經隆ふちらび

窓のをしへ

古物語類字抄云。骨董集ハ女房の火爐ふ足さしのべたる圖を載て。詞華堂故細井がをたすまど

將門合戰繪

れをしへといふ。ふるき繪卷ハ見ゆ。とあり

吾妻鏡云。正治三年十一月廿六日。將軍家日來仰畫工於京都。被圖將門合戰繪。今日掃部頭入道所調進也。二十箇卷。納蔭繪櫃。殊御自愛云云。同書云。寛元三年十月十一日。日來於京都。以平將門合戰狀。被令畫圖之。去夕參着之間。於將軍御方。大殿覽之。教隆讀申其詞。

柳菴隨筆云。將門合戰不記

躬行曰。正治三年二月十三日。元を建仁と改めらる。然る小十一月下旬。小至りて。猶正治の號を用ゐる。ハい。以。時勢を觀るべし。さて寛元の將軍ハ。頼嗣。大殿ハ。頼經。ふり去年北條

摩訶羅神祭繪

摹刻本黒川眞頼藏



經時其主賴經を廢して賴嗣を立つ

補同

補本朝畫圖品目云將門合戰繪

補真賴曰柳菴隨筆云へる將門合戰ハこの畫をいへるるべし

補摩訶羅神祭繪

補古繪目錄云摩訶羅神祭繪住吉家藏

補古畫類聚目錄云摩訶羅神祭繪

補真賴曰摩訶羅神祭の繪ハ太秦牛祭繪なり。うノ部見合をべし

補舞繪 三卷

補教言卿樂事拔萃云應永十五年十月十六日。梅尾宮舞繪中三卷上借給也。急ニ可寫也。廿三日舞繪

本母尾親借給也。季英少々寫之。十一月一日繪具

等買寄也。季英見調之。二日季英來繪舞也。五日季

英來繪書之。六日季英今日モ來繪色許也。七日季

英來舞繪彩色事也。八日舞繪終了。季英神妙也。與

引出物五十足。比興々々

補同 三卷

補畫季英

補真賴曰。此舞繪ハ。梅尾宮の舞繪を更ふつ  
せりものなり。引書上件小あり。見合をべし

補同

補皇朝名畫拾彙卷三云。承道法親王木寺宮世平

剛院御猶子。法全剛院御室。又後金畫舞圖題書則三

條宮未詳共寶德頃也

補 蒔繪の繪様

補 人車記云、仁安三年九月廿九日、早旦行水解除  
參行事所、諸國ノ召物多辨濟、太夫史同參着、御調  
度塗調螺鈿地少々居貝、又蒔繪物宗茂畫繪様、四  
尺御屏風、同墨畫云云

松風琵琶

撥面畫松樹、槽未詳原伶人林廣範藏

松禽繪 一幀

倭錦云、住吉慶恩、松鳥圖

補 前田德善院玄以像

補 京師大雲院藏

補 松浦家赤烏帽子像

補 本朝畫圖品目云、松浦家赤烏帽子像、平戸侯藏

補 裏書云、松浦肥前守鎮信後刑部卿法印嘗テ奉公ノ志

アリ、便ヲ得ズ、一年上京シ、赤キ烏帽子ノ異ナル  
ヲアヤシミ問玉フ、松浦鎮信ナルヨシ答ラレ、奉  
公ノ願アルヲ演ラル、然シテ奉仕シテ恩ヲ蒙ル  
ト云云、コレ其ノ時ノ像ナリ、然ルニ松浦家ニ記  
録アリテ、像ハ無カリシヲ、近頃コノ像ヲ得ラレ  
シガ、破裂センコトヲイトヒ、挂意ニ摹セシメラ  
レシ時、摹シオク所ノ者也ト云フ

補 真頼曰、此の像の摸本、博物館ふちう、坐像ま  
て赤き烏帽子に直垂を着し、右手に扇をとて

了

補 松永貞徳像

補 山城國上烏羽實相寺藏、松永貞徳像、自讚云、道

遊軒貞徳居士肖像 三十八歳 法中のいれち消了こそ  
 もの玉くしげふと、びうけぬみのりならん  
 承應二癸巳年十一月十五日、裏書云、表具修復寄  
 進主、洛立本寺隱居日進上人、上鳥羽實相寺常什、  
 天明六丙午四修覆主寄進、延享二乙丑閏十二月  
 吉辰、廿三世日傳 花押 竹腰甚兵衛作名岐山 花押  
 補 摩古仙像  
 補 倭錦云、宅磨榮賀、摩古仙

美部

彌勒菩薩像 一幀

展閱目錄 高野條 云、明惠上人筆

補 同

補 倭錦云、弘法大師、彌勒像、當麻中坊什物

補 同

補 石川年足卿筆、高山寺藏

補 真頼曰、筆力温雅、おして道健なる所ありて、  
 住吉氏所藏の基光の阿彌陀佛、似と久、拍不  
 貨一郎、此の模本を藏す

補 壬生寺縁起 六卷

補 寺社寶物展閱目錄卷一 壬生寺條 云、縁起繪詞、詞  
 蜷川新右衛門、繪筆者不知六卷、畫ハ素人畫して

御座候

補皇朝名畫拾彙卷三云。蜷川親當稱帶新右衛門俊子薙髮法名知蘊文安五年五月十日卒自畫肖像今在嫡流之家云。又見龐居士圖。有大德寺春浦和尚贊。或山城州壬生寺緣起亦所畫云。

補本朝畫圖品目云。壬生寺緣起一卷。畫者不詳。詞蜷川新右衛門。

補真賴曰。本朝畫圖品目小。一卷とあり。八。誤して六卷なり。

補明惠緣起 一卷  
補本朝畫圖品目云。解脫明惠緣起一卷。畫巨勢有家。詞為相卿。

補明惠解脫上人緣起

倭錦云。姉小路長章。明惠上人解脫上人緣起

明惠上人繪行狀 三卷  
展閱目錄稿山云。明惠上人繪行狀三軸。三宅高信筆。

蜷川親元日記云。寛正六年七月二日。明惠上人繪三卷。貴殿懸御目候。同日。明惠上人繪三卷。自貴殿被返下之日。同日。明惠上人繪。新造女中へ被召之。以ちや三薦進之。

補元幹曰。明惠傳とハ別歟  
躬行曰。高信世系考ふる處なし。名畫拾彙ハ載之て。其年代を未詳と記せり。且親元日記所記と。たまたま。卷數同じげども。其異同を志ら

續群書類從卷第五  
百二收頓阿高野日  
記

水無瀨殿四季御繪

高野日記云信實朝臣の水無瀨殿の四季の四卷  
詞書同筆御製などのあるありしハ御ふ侍もく  
まへらまじりそのへどの瀧殿田上のいなむど  
のかまふ臨めり茅ぶきれりとの所々此いま  
木の色あひ水れりろむへそのをりりとのけ  
しきをかきまけらまじいまもめはつきたるや  
うふ侍り  
増鏡のたごろ云みなせといふ所ふえもいさげた  
もしろき院作りまむらよひれたましましつ  
つ春秋のまねもみちに法考ても御心ゆくかぎ  
ま世をひぶかして何そびをのまを給ふ所が  
らもまるとと川ふのぞめる眺望いとたもし

粉本白描卷音男  
をいふ葵を玩ぶ所  
と畫けり能畫り  
高島千載云世ふ隆  
成源氏といふハ即  
是也

名目不知物語 一卷

ろくまん元久の項詩と歌を合せらまじふも  
ままきてこそハみまとせバ山もとのまむみな  
せうはゆふべら秋とまにれるひけんかやぶき  
のらりまことどのなどまらまらとえんあをらし  
うをさせ給へり

倭錦云土佐光正物語名目不知詞後二條院了佐  
奥書

明義雙紙 一卷

好古小録云畫工姓名不傳

補古畫類聚目錄云明義草紙本朝畫圖品目  
亦こまは同じ

補古畫目錄云明義草紙繪京都土佐守家繪本

補御河ふさけり物語繪

繪補考古畫譜卷十



補明月記云貞永二年三月廿日云云日來撰出物語月次五十二所不入源氏并狹衣於哥ハ雖不可然源氏當又時院御方別被書狹衣此所撰夜寢覺御津濱松心高東宮宣旨左右袖濕朝倉御河ハ開留取替波也末葉露海人刈藻玉藻ハ遊以十物語撰每月五金吾清書訖又加一見返之付繁茂進入云云

補御津濱松物語

補同書云貞永二年三月廿日云云

補真賴曰明月記の文上ハいてとハバハにハ略せり見合ハべし

補御狩野御幸圖 一卷

補所藏者不詳摹本博物館ハあり

補真賴曰國朝書目本朝畫圖品目ハ野行幸圖

といへるを掲ぐ恐らくハハと同物ならん

御神樂圖 一卷

住吉具慶筆

御蔭祭神幸圖 一卷

國朝書目云御蔭祭神幸雙紙本粉一卷

補古畫目録云御蔭祭神幸草子繪本一卷

補御幸圖

補古畫類聚目録云御幸圖

補古畫目録云御幸圖狩野永賢藏繪本

補御幸供奉繪

補玉海云治承二年正月十四日召佛師賴源令書

繪様中將供奉御幸之間事也

水車圖屏風

倭錦云土佐廣周水車屏風

補觀古美術會出品目錄云峰須賀茂韶藏屏風一  
雙垂柳水車ノ圖土佐廣周筆

補真頼曰住吉廣貫の紙中極あり

補三嶋社寶物圖 三卷

補摹本博物館ふあり

水手繪

東三條院瞿麥合云七月七日皇太后宮ふなでし  
こあをせよさを給ふ左頭少將内侍山のる此中  
將たほろよ右のかよ少將のおもと四位少將と  
ちよ云々右のをまよまよせゆひてなでしこそ  
うゑとよをれませにとひとるいもづるの葉に  
かぬをりよろづよみふるともあかぬ色なまや

そらまがきあうなでしこのをふあのをまよ  
あゝろばにうづてあうよしのふ常夏はあも  
汀小咲ぬをば秋まで色ハふうくみえけりかぬ  
もま久しくもあほふべきうあ秋なれどあほと  
こなの花といひつゝ棚機ひこぼし雲のうへ  
おありまよつましたるかよなどありまよまよの  
まよまよに水手にくよしのふ契あん心をあうさ  
たなはよのきてはうあふまよこあつてあ云  
云

躬行曰此水手の繪こゝあまろし出べきもの  
ふもあらざめ此ど今ハなべてあしでのを  
こそいへ此水手ハまよをたすやうなるに  
いでなまよ書りせつ繪様ふよまよてハみづ手

こそふさとしてしるすべけれさて此瞿麥合古  
今著聞集五卷群書類從第二百廿六所載各有異  
同

補三上山圖

補畫工便覽卷五云重信俗名源四郎松榮法眼嫡  
男天文十二年生所畫強厚而筆力搖動非所及言  
舌氣韻生動成早年丹青超越于父甚以是狩野中  
興名手平信長公江州安土山令築一城狩野一家  
圖繪之其至于書院可鑑覽三上山故令造矣畫圖  
命重信一之間摸寫彼山景功終而後終日詠覽真  
山夜戶障子畫圖半開詠則真山尾崎又障子繪書  
繼之信長公深感之敘法印名永德近世神品畫工  
曜於名天下後陽成院慶長二年秋九月十四日卒

四十八正親町院至延寶元年百廿餘年

補宮門跡真影 一卷

補舊尾州家藏なすよし今比藏い川崎氏云へり

源義家朝臣像

戎裝圖賛夢想國師在畫工紙不紙所

源賴朝卿像 一幀

戎衣圖宅磨法眼筆

補真賴曰此の像ハ東大寺ふ藏せるもの歟よ  
ノ部賴朝卿は像の部見合をべし

源義滿公像 一幀

春日行秀畫

補倭錦云春日行秀鹿苑院殿像色紙アリ京高尾  
什物

補真頼曰。色紙アリと見込と了ハ。畫上小置色紙のありといふことなるべし

明惠上人白描肖像 一幀

倭錦云。宅磨惠日房。梅尾什物。明惠上人墨畫影。此筆梅尾ニ多ク有リ

展覧目錄高寺條云。宅間法眼實子惠日房筆。墨繪像一幅

本朝畫史云。僧成忍號惠日房者。明慧上人弟子也。性好畫圖。學宅間法眼。或曰宅間之子也云云。筆格能似宅間。專工佛像兼能雜畫

補明惠上人像

補集古十種肖像云。明惠上人像。久米多寺藏

補真頼曰。坐像。小脇卓おか。左手に經卷

二軸をもち右手に團扇ををてり

補同 一幀

補梅尾高山寺藏。畫者不詳。摹本博物館あり

補真頼曰。松下石上お坐せ。觀念の像なり。畫上小置色紙あり

補同 一幀

補梅尾高山寺藏。繪宅磨勝賀。摹本博物館あり

補真頼曰。右手に珠數をもち。左手に經卷をもてり。高山寺の持經の像即是なり

補同 一幀

補梅尾高山寺藏。畫工不詳。摹本博物館あり。摹本に記して云。此圖原本古畫梅尾什物也。損じ強くて顔色皆落つ。其外皆殘らむ

補真頼曰。坐像ふて珠數をとり。畫上ふ上人自筆の詠草を押したり

補同林中坐禪圖 一幀

補梅尾高山寺藏明惠上人自畫自讚淡彩

武部

紫式部日記 殘缺

畫左京權大夫信實朝臣。詞後京極攝政良經公。按ふ倭錦ふ榮花物語繪信實朝臣。詞後京極殿と載たるハ。この日記をいへるるべし。松山侯近時藏一卷

補同

補明月記云。貞永二年三月廿日。日來撰出物語月次云云。又蜻蛉日記十所許撰出同送金吾許。紫日記宜秋門更級日記中宮大夫書進之。自承明門院被書其外蜻蛉所殘歟。仍令書出之。近日此畫圖世間之經營歟

宗俊繪詞 二卷

書畫筆者姓名不傳

躬行曰古鈴木安寛が所藏の摹本を以て菊池武保校萃せる本を見り其詞をさへ不洩せむバ詳ふらびと雖嘉禄仁治などに畫きけんものあるべきや越後本と稱するものありといへる

補致光繪

補古畫目錄云致光畫一云灌頂卷

補眞頼曰致光繪ハいとゆる小柴垣草紙なりこノ部見合ふべし

室町殿廐圖屏風

彈正忠廣周筆土佐守光孚鑿

元幹曰此繪法眼古琢眼ハ粟田口法眼隆光所

畫かといへるきこの屏風予が家藏なるしを青年浮華のたりに出し售る今を以て考むべし實ふ惜むべし

無量光院四壁并扉繪

吾妻鏡云文治五年八月十七日无量光院號新事御堂

秀衡建立之其堂内四壁扉圖繪觀經大意加之秀衡自圖繪狩獵之體

本朝畫史云藤原秀衡創無量光院號新御堂四壁圖無量壽經大意加之秀衡自圖狩獵之體三重寶塔院内ノ莊嚴悉模宇治平等院

倭錦云秀衡無量光院堂四壁扉繪同新御堂按ふ此院内の畫秀衡ぶかく所狩獵圖ふべき倭錦にまべし秀衡筆とるものハ誤あり

牟禮高松軍繪 一幀

倭錦云土佐行光群高松

補 虫歌合

補 燕石雜誌卷四云虫歌合

補 室生山圖

補 畫工便覽卷二云小野仁海自弘法八代小野曼

陀羅寺開山也。好丹青。圖佛像宗金岡之風格。和州

宇多郡室生山圖畫多在之。永承元年卒

武智麻呂公像 一幀

補 集古十種肖像部云藤原武智麻呂公像大和國榮

山寺藏

補 本朝畫圖品目云武智麻呂像榮山寺什古畫類

亦同

倭錦云巨勢公持筆武智麻呂之像和州榮山寺什物

貫雄曰畫中有養老年號凡古昔衣冠の體を畫

かけたものたむの峯大織冠公像と此像とを

以く當時此風を勘ふべし

躬行曰此幅長四尺六寸五分弘二尺八寸五分

絹本也

補 真頼曰摹本博物館ふあり束帶ふて帶劔し

笏を袖くゝし小持より後ろに衝立障子あり

藤花を畫づけり障子も題して大和國宇智郡

榮山寺養老三年建立之本願贈太政大臣正一

位武智麻呂真影也と見ゆより

紫式部自畫像 一幀

名畫拾彙云。紫式部越後守藤原為時女。能作丹青。手摹自容。置江州石山觀音堂。畫上題云。有門空門。亦有門。亦空門。非有門。非空門。書歌二首。其畫中年散失。近衛信尹公命狩野孝信圖彼像。題字和歌。一如舊式再置之。

躬行曰。畫上小題して云。有門空門。亦有。亦空門。非有非空門。誰うよ小なうらへうんかきと。免しあとい消せぬかといあまどもあまらど。小いうあろみあうかあふらんたもひあまど。とかもひあらまび近世所存者如此。

補紫式部像

補集古十種肖像云。紫式部像。近江國石山寺藏。

補真頼曰。坐像あり。古下小筆をもてり。

補無學和尚像

一幀

補鎌倉圓覺寺藏。絹本寺傳云。自畫自讚。

補政矩曰。弘安七年九月三日云云とあり。



免部

補 妙見尊像

補 東寺寶翰古器目錄云。鑑真和尚筆妙見像一幅

補 妙音天像

補 崇光院御琵琶御傳業宸記云。貞治五年十二月

十八日。南面小堂二ヶ間為其所其儀佛壇中央懸

本尊妙音天像以西園寺妙音堂本尊繪所預隆兼

院賜之。忠季卿傳業之時同懸之。

妙音院殿繪詞 一卷

書畫筆者未詳

躬行按。此繪詞相國師長公。琵琶堪能のり此  
がとりよして。書畫の時代もいとるからぬ  
成べし

補 妙安寺太子傳

補 本朝畫圖品目云。妙安寺太子傳

補 圖畫一覽下卷云。妙安寺太子傳畫慶恩法眼

補 真賴曰。妙安寺太子傳八。聖德太子傳不。志

ノ部見合をべし

補 妙法院宮廡の間の繪

補 倭錦云。妙法院宮廡之間

補 名所繪の障子

補 明月記要目云。建永二年五月御堂障子名所畫。

召付畫工尊知房兼康。康俊。光時

補 明月記云。建永二年五月十四日。御堂障子召付

畫工可令畫之由。夜前有仰夏。至愚之性本自不見

洛外。又無繪骨。旁不當其仁之由難恐申。有思食樣

被仰下由。頭辨之仍。今日為沙汰其夏終日伺候。御  
神泉之後。於和歌所招藤少將秀能等相共示合。少  
將依見東國。且依仰相副之四人繪師。今日三人參  
入。又仰云。以尊智大輔兼康内舍可令書晴方。以康俊  
信能光時八幡可令書襲方。晴襲難計之由。重以掌  
侍申入。只可相計由。被仰粗□□所々今日分充四  
人了。三人受取先書繪樣。可進覽由。示合之退出

毛部

文字阿彌陀三尊像

一幀

古今著聞集五卷云、西音法師ハ、昔後鳥羽院の西面  
 小平時實とて、をさなくよりさぶらひしをのな  
 る。世かまより嘉禎頃、五十首の歌よみて、遠所の  
 御所小藤原友茂が候ひけり、お送りたりけり。を  
 君さこしめして、獻覽あそて、みづら十餘首の  
 御點を下されけり。中に、みまのつ涙々ましも  
 みおせ川いつより月ひひとりをむらん。此うた  
 をあまれがらせたましきけり。とぞ、さて御自  
 筆に、向えど三尊を文字にあそむして、うだし給  
 こせけり。今ハかこじけなき御紀念とて、常にを  
 がとせおらせ侍るとなん

補 木筆觀世音像

補 京花集卷二云。觀音贊高野一心院水。惟天為大。如海無涯。古佛正法。明蚤離羅穀地位。慈父觀自在。誓駕瑠璃寶車。以下略應仁戊子五月十八日。書于鞍馬寺客欄下。

同 不動像 一幀

本朝畫史云。根來寺覺鏝上人。託間為遠傳畫法。尤善梵書。曾以木筆淡墨。圖不動像。生意發動。有神妙。非凡手之所及者。

同 一幀

倭錦云。土佐光顯。木筆不動。

同 兒文殊像 一幀

同書云。覺鏝上人筆。木筆兒文殊。

文殊像 一幀

東寺御影堂具足目錄云。弘真僧正筆。即彼僧正寄進。每月勸覺院文殊講本尊。用之。

補 同 一幀

補 巨勢金岡筆。狩野探信藏。

補 真賴曰。獅子ノ乘り右手に劔をもち。左手に蓮花をもつ。像ノ髪を分て五處ノ結べ。摹本狩野晏川藏。

補 同

補 畫工便覽卷四云。長利不知其姓。甲陽侍士。得傳神。畫文殊普賢二像。圖之。則變易常衣服。潔齋淨明。而採筆云云。

補 同

補錄倉極樂寺藏忍性菩薩行狀略頌云良觀上人諱忍性父伴貞行母稷氏和州城下屏風二生ル云云二十四歲仁治元窮情上人ニ聽古迹則觀無常捨身財悉施貧乏圖佛像道世後住西大寺圖文殊像摺般若自建治三至弘安文殊二幅每月圖

補同

補京花集卷七云文殊上杉太子藤公自畫文殊普賢二大士乞費走筆聞說上杉賢使君筆端直起五臺雲文殊無二是非外春入童顏花自薰

補春村曰保文明十四五年間作

補同

補倭錦云巨勢相見文殊

補同

補同書云巨勢有久文殊

補同

補長西錄云一書云遊醍醐寺有觀下之畫文殊粉本其裏有建仁二年十月珍海筆之字筆法上古之風而已或曰住東大寺也一書云前禪林寺永觀律師滅後住禪林寺故云後禪林寺上人也然醍醐東大所住異ナレトモ聖寶僧正本東大ニ住シ東大亦密宗ヲ兼テ兩寺同ジク顯密兼學シ二處互ニ諸事相通スサレバ處異ナレトモ人ハ同シキニヤサレド東大ノ珍海ハ時代殆古ケレバ醍醐ノ珍海ハ別人ナルベシ

補春村曰一書小文殊の畫小建仁二年とあるハ諾ひがたきこゝち也畫師の珍海ハ大治頃

の人あり

補同

補天聽集云。天文四年八月七日。廬山寺靈寶種々帥大納言持參也云云。其外慈惠大師筆不動。又誰歟。自筆文殊之像也。爲結縁小高檀紙十帖。香莖出之。

補大和國法隆寺藏。文殊菩薩像。珍海筆といふ。

補答圃曰。屏風の張まぜの繪あり。

補物語繪 殘缺一卷

補繪上佐光顯尾張家藏

補奥書云。右繪草子一卷。御詞書者。後二條院御宸筆。無紛者也。乍憚依命證之而已。寛永十二曆初秋。

上旬。古筆了佐花押并印

補真頼曰。摹本博物館にあり。繪様隆能源氏に似たり。詞書に下繪あり。甚見事なり。

補同 一卷

補畫工隆能。詞書寂蓮法師。秋元興朝藏。

補倭錦云。春日隆能物語繪殘缺

補貫義曰。明治十七年三月。始て此の繪卷を見。筆意と著色とみよきて考ふるに。隆能の筆なることうたがひなし。

補真頼曰。卷のはじめありらるるもの管絃して。あそべる所を繪づけり。世にいとゆる隆能源氏を見らぶよし。

補物語卷物殘缺

補倭錦云春日行長物語卷物殘缺

補貫義曰世に此の物語の殘缺あり往々これを

見り川崎千虎氏所藏のも此も亦此の斷簡なり

補蒙古襲來圖卷

補古畫目錄云蒙古襲來圖卷肥後國阿蘇宮藏

同繪詞本名竹崎  
李長繪詞 三卷

畫圖品目云文永弘安年間畫畫者未詳竹崎五郎

兵衛尉季長

倭錦云長隆長章兩筆蒙古襲來

原本卷後云永仁元年癸巳月傳云季長  
所自記

屋代弘賢曰此畫世人稱為蒙古襲來繪詞者誤

矣蓋竹崎季長自記其勲功以納于神庫者也宜

稱竹崎季長繪詞

躬行曰此繪詞ハ肥後細川の家人大矢野武右

衛門某が所傳なり此家ハ繪詞中ハ載とる天

草の大矢野十郎種保が裔にして昔日竹崎と

通家なりしがハ婿引手もの不得させし所不

しといへり今ハ侯の寶庫にをさめて私ハ出

納を不許し同藩士木原楯臣よりきけりさて

此卷ハ屋代翁のいをもし如く竹崎五郎が勲

功の物がとまおれば我あづからざり軍ハも

とより載り所ハあらばさるを是をもて蒙古

合戦の全體としもれもへり入のをりくハあ

るよしなるハいとしき誤なりまこと云近邇水

野土佐守丹鶴叢書中ハ縮圖の刻本三冊あり

そハ故高嶋千春が縮寫をしふる原本ハ肥後

人福田川象かの真跡本を以て模寫せしむる  
即千春が藏本あり然るに其刻本上巻第十七  
葉のうちに岡邊の松樹ある處に夷賊の首をた  
ち薙刀の尖に貫ぬきもとの歩立の武者二人  
あるところより第廿一葉の表にけふさ手此  
もの分どりあまともと詞書ありて弓もた  
騎馬武者の並たてた所までハ真跡本よハあ  
らびをハ前の詞みあしげある馬み紫さうた  
もどりの甲み紅にゆるけたるむさ其勢百  
餘きざうまに見えてけうとの陣をりけやぶ  
り賊徒たひかとして首二太刀薙刀のさきに  
はらぬきてさうにもとせ云云とある菊池  
次郎武房がもとらきの繪もをもとるがくち

をしとしてかの川象が試みりきをへしをの  
るをさるまいと免もなくひとそらに寫し載  
たるハいみじき失錯ありし此事予が親し  
うまし肥後人木原指臣其弟狩野藤太養長二  
人よりさける處なり川象ハ木原が同族なる  
此繪詞みづら三本を真寫せし人も先つと  
し勤番をとく江戸に有けるをいハ菊池武保  
號 齋 容 のもとふも行ひてけむバ川象上件の  
補畫はこやを武保も乞ふほど否してえうき  
あへぎまきと武保もをにらたまつまとか  
の補筆の一段武者ハさしもあらぬど樹木ハ  
いよく拙く料紙さへも新しかまきとさきに  
千春が本を摹寫せし北爪有卿もいへりこと





蒙古襲來繪詞  
摹本在博物館

小予が養長ふうのさせし真跡一傳の家本  
も此一段ハある事なし其證かくれごとし  
ハ真本小このくだりのあらざるを後人怪し  
む疑ひまゝ補畫を以て真跡とせむことを  
それとむらし親しくまじらひし千春が  
やまを補ひがてらかくらへしある  
しにくまむ續群書類從第五百七十三竹崎  
五郎繪詞あり

補真頼曰蒙古襲來繪詞摹本四卷博物館  
あり此繪卷或ハ竹崎率長繪ともいへば  
たノ部ふも掲げたり見合をべし

補同異本

補圖畫一覽卷下云蒙古襲來圖異本

補元翰曰此卷ハ普通の本の次第交錯を  
考へて畫詞共ハ次第に都合を直したる  
なり

補物語を少くまぜて四季の繪

補古今著聞集卷十一云後堀河院御位を  
べらせ給ひて内大臣の冷泉富小路亭  
ありとらせ給へり天福元年は春の頃  
院藻壁門院の方をもちて繪つくの  
貝たほひありけり大殿攝政殿女  
院の御方よぞたましましけり一方  
ふあうるべき女房達四五人許ふて  
ひろきふハ及ぎけり先女院の御方  
負させ給て源氏繪十卷たると料紙  
小書々色々の色紙ふ詞ハかゝる  
たりけり能書の聞えある人こそ  
うゝまた此からの唐櫃

ふふん入らまたりけり。御妬<sup>オク</sup>は院の御方負ありて。小衣<sup>サヨモ</sup>の繪八卷。又さまぶりの物語まぜて四季小書<sup>コショ</sup>。一月を一卷。十二卷。みせられりけり。料紙こと葉源氏の繪れごとし。其外雜繪二十餘卷あたらしく書出して。たなづくからの櫃二合ふ入らまたりけり。合せり三合也。又風流の繪など。小衣の繪ふ入て。くまへらまたりけり。や  
補真頼曰。物語とりまどる四季の繪ハ。明月記貞永二年三月廿日の條ふ見とる。小夜の寢覺。御津濱松。心高き東宮宣旨等のもの語な。こまらハその條々に掲載せり。こまハひとつふまべり。四季を十二卷ふものしとる。うへよりいへまば。その稱をもてとりいでとる

なり

補物草太郎雙紙繪

補燕石雜誌卷四云。物草太郎

喪之繪 一卷

筆者姓名不知

貫雄曰。畫工ハさだうみあらぬど。五百年前の繪ふり事あらし

牧馬御琵琶

胡琴教録云。或人曰。牧馬ハ紫檀甲に。小馬<sup>コウマ</sup>を二三足木繪ふ。入り入とるなり

木筆卅六歌仙 色紙

倭錦云。土佐光顯。木筆三十六歌仙。色紙和歌類聚目錄云。木筆歌。光顯筆。  
水戸家藏

補門圖

補圖畫一覽卷下云。門圖寢殿圖と合て四卷。裏松固禪入道輯

補真頼曰。門の圖ハ。寢殿圖と合せて。殿門圖とも稱するも此なり。てノ部殿門圖の條見合をべし

文字人麻呂像 一幀

後鳥羽帝宸翰。以歌文字作像。以硯字造研匣。且加彩色。意匠妙絶。信州墨坂侯珍藏倭錦云。後鳥羽院人丸文字入

補守屋大連像

補京都藤木肥後守所藏

補真頼曰。椅子ふかき像あり。摹本博物館

ふあり

補師長公像

補本朝畫圖品目云。太政大臣師長公像。所藏未詳。補真頼曰。師長公ハ妙音院殿といふ。琵琶堪能の仁なり

文覺上人像 一幀

畫工姓名不傳。高雄神護寺藏

補本朝畫圖品目云。文覺上人像。高尾山什物

補集古十種肖像云。文覺上人像。高雄神護寺藏

補真頼曰。坐像。小く左手に珠數をとてり。巨幅なり。摹本博物館ふあり。宅磨法眼の畫とあり

增補考古畫譜卷十

增補考古畫譜卷十終

